

IV. 教育の成果及び改善システム

1. 教育の成果

1.1 養成する人材像とその達成状況の把握・評価方法

本校の準学士課程において養成する人材像は、「健康な心身と豊かな人間性」を備え、「一般教養及び最も得意とする専門分野の知識・能力」を有し、「柔軟で実践的な技術力」をもった技術者である。

卒業時におけるこれらの達成状況の把握は、学業成績の評価等に関する規程、及び施行細則に基づき、以下の手順で実施している。(1)各科目の学習目標や成績評価基準はシラバスに明記され、成績はそれに基づいて評価されるが、学年末には評価の根拠として評価内訳表(資料4-1-1)の提出が義務付けられている。(2)卒業研究の評価基準は学科毎に定めているが、基本的には論文(作品)、発表、発表会レジュメ等を複数ないし学科全教員で審査・評価している(資料4-1-2)。(3)教務委員会で成績評価基準に基づいて各授業科目の単位認定を行い、各学科で定める卒業に必要な単位の修得状況を把握する。(4)卒業認定は、教員会の審議を経て校長が決定する。

資料4-1-1

評価内訳表(抜粋)

学科(都市システム工学科) 学年(5学年) 科目名() 担当教員() 印

氏名	評価計 (100%) 点	定期試験(%)					評価点 (A×%) 点	平常の 試験 (%) 点	演習課 題報告 (%) 点	学習状態 (%) 点	出席状況 (%) 点	実技 (%) 点	その他 (%) 点	備考
		前期中間 (100点満点)	前期期末 (100点満点)	後期中間 (100点満点)	後期期末 (100点満点)	年間の成績 (100点満点) A								
1 坂東太郎														
2 筑紫次郎														
3 四国三郎														

資料4-1-2

卒業研究の評価(電気情報工学科の例)

目的達成度の評価は、研究の取り組みの評価(10%)、中間発表会での評価(20%)、卒業論文の評価(50%)、卒業研究発表会での評価(20%)を総合する。研究の取り組みは、研究内容について記した研究ノートをもとにして、研究時間、研究に対する姿勢、研究の理解度などについて、指導教員が10点満点で評価する。中間発表会、卒業研究発表会では、ポスターやOHPの見栄え、研究課題における問題点の理解および分析、研究課題に対する適切なアプローチなどについて、発表会に参加した全教員が20点満点(レジュメ:10点、発表:10点)で評価し平均する。卒業論文は、論文構成、研究課題における問題点の理解および分析、研究課題に対する適切なアプローチ、独創性、視野の広さなどについて、指導教員および指導教員以外の教員の2名が50点満点で評価する。以上を総合し、60%以上取得した者を合格とする。ただし、各項目で60%未満の評価がある場合、学科会議で審議するものとする。審議の結果次第では、論文再提出・再発表等によって60%未満の評価の項目について再評価を行うこともある。

(出典 平22年度シラバスより)

専攻科課程では、準学士課程において養成する人材像に加えて、「関連する他の専門分野の知識・能力」と「複眼的視野に基づき、自然や社会との共生に配慮した多次元的なシステム思考」を兼ね備えた技術者を養成している。修了時におけるこれらの能力の達成状況は、準学士課程と同様に以下の手順で行っている。(1)専攻科・JABEE委員会が各専攻における必要習得科目の単位取得状況やTOEICの成績及び総合試験の成績に基づいて把握・確認する。(2)特別研究の審査は、中間発表、論文、審査発表、研究年報等を複数ないし全教員で審査・評価する(3)教務委員会で修了の可否を確認する。(4)教員会の議を経て校長が修了を認定する。

1.2 進級率・卒業率・学位取得状況等からみた教育の成果

準学士課程については学年制をとり、進級については学業成績の評価等に関する規程で定めている。また、専攻科課程については専攻科履修規程に定められている。準学士課程学生の進級の状況を表4-1-1に示す。

卒業（修了）の状況として、準学士課程の卒業率を表4-1-2に示す。また専攻科課程では平成15年度からJABEE認定校になり平成17年度から専攻科修了条件、JABEE認定条件、学位授与（学位授与は平成19年度から）を一致させている。表4-1-3に学位取得状況を示す。平成18年度から平成22年度で専攻科修了学生は100%学位を取得している。

資格取得については、準学士課程入学時にホームルーム等を利用して各学科で推薦できる資格についての指導が行われている。例えば化学では「危険物取扱者乙4種」の取得を奨励している。平成18年度から平成22年度（平成20年度は対象学年が変更したので実施されず）の本校の「危険物取扱者乙4種」受験者と合格率を表4-1-4に示す。全国平均（35～40%）と比較して非常に高い合格率である。

また本校の教育目的である「豊かな国際性と指導力」を伸ばすため、平成14年から年に2度TOEIC IPテストを実施して受験を推奨するとともに、成績が400点を超えた者については、英語Dの単位を与えている。平成18年6月から平成22年12月までのTOEIC試験の結果を表4-1-5に示す。平成22年卒業時に英語Dの単位を取得した学生数は125名であった。一方、専攻科課程では、平成17年度からTOEIC 400点相当以上の取得を修了のための条件としている。

卒業研究では卒業研究発表、卒業論文（卒業設計）及び中間発表等を課し、専攻科特別研究では発表会、特別研究論文及び学外への出版物として「研究年報」の執筆を義務化している。平成20年度の「研究年報」による専攻科特別研究の研究テーマ一覧表を資料4-1-3に示す。平成18年度に23件、平成19年度に25件、平成20年度に24件、平成21年度に32件、平成22年度に27件と着実に成果を重ねている。そして、優れた研究には学会発表等を積極的に奨励している。表4-1-6に専攻科学生の学会発表等の状況を示す。平成18年度に38件、平成19年度に18件、平成20年度に42件、平成21年度に48件、平成22年度に52件の発表等の実績がある。

研究を含め学生が身に付ける学力や資質・能力について判断できる資料として、平成18年度から22年度の学生の表彰状況を表4-1-7に示す（体育大会等の表彰は除く）。日頃の学習や卒業研究、専攻科特別研究等において、学会等に発表された学習・研究成果の中で、平成18年度で27名、平成19年度で27名、平成20年度で25名、平成21年度で11名、平成22年度で15名の学生が外部機関によって高く評価され、表彰を受けている。

表4-1-1 留年・退学者数一覧（平成17～21年度）

留年者数（平成17年度～平成21年度）

	H17					H18					H19				
	機械	電気	都市	建築	計	機械	電気	都市	建築	計	機械	電気	都市	建築	計
1年	0	1	1	1	1	0	0	2	1	3	1	0	0	1	2
2年	0	0	0	3	3	0	0	2	1	3	0	1	0	0	1
3年	0	2	0	0	2	0	1	1	0	2	1	1	0	1	3
4年	0	1	1	0	1	2	3	1	0	6	0	1	3	0	4
5年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2
計	0	3	0	4	7	2	4	6	2	14	3	4	3	2	12

	H20					H21				
	機械	電気	都市	建築	計	機械	電気	都市	建築	計
1年	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
2年	0	1	2	2	5	0	0	2	1	3
3年	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
4年	0	1	0	1	2	0	1	2	1	4
5年	1	0	0	0	1	1	1	2	0	4
計	2	2	2	3	9	2	2	6	2	12

退学者数（平成17年度～平成21年度）

	H17					H18					H19				
	機械	電気	都市	建築	計	機械	電気	都市	建築	計	機械	電気	都市	建築	計
1年	1	1	0	1	3	0	0	2	3	5	0	0	1	1	2
2年	0	0	0	1	1	0	0	0	2	2	0	1	1	1	3
3年	0	0	2	0	2	1	1	0	1	3	0	2	1	0	3
4年	1	0	0	0	1	2	1	2	1	6	0	2	2	0	4
5年	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
計	2	1	2	2	7	3	2	5	7	17	0	5	5	2	12

	H20					H21				
	機械	電気	都市	建築	計	機械	電気	都市	建築	計
1年	0	0	0	1	1	0	0	1	0	1
2年	0	0	0	0	0	1	2	2	2	7
3年	2	0	0	1	3	0	0	1	0	1
4年	0	0	1	1	2	0	0	0	2	2
5年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	2	0	1	3	6	1	2	4	4	11

	M	E	C	A	合計	年平均
留年	9	15	17	13	54	10.8
退学	8	10	17	18	53	10.6
計	17	25	34	31	107	21.4
年平均	3.4	5.0	6.8	6.2		

	1年	2年	3年	4年	5年
留年	7	15	8	17	7
退学	12	13	12	15	1
計	19	28	20	32	8
年平均	3.8	5.6	4.0	6.4	1.6
級平均	1.0	1.4	1.0	1.6	0.4

表4-1-2 準学士課程における卒業率

平成17年度

学科	入学時人数	卒業人数 (5年間)	卒業率 (5年間)	卒業人数 (留年生も含む)	卒業率 (留年生も含む)
機械工学科	43	36	83.7%	37	86.0%
電気情報工学科	42	37	88.1%	38	90.5%
都市システム工学科	42	34	81.0%	36	85.7%
建築学科	42	38	90.5%	38	90.5%

平成18年度

学科	入学時人数	卒業人数 (5年間)	卒業率 (5年間)	卒業人数 (留年生も含む)	卒業率 (留年生も含む)
機械工学科	43	41	95.3%	41	95.3%
電気情報工学科	43	41	95.3%	41	95.3%
都市システム工学科	41	36	87.8%	37	90.2%
建築学科	42	38	90.5%	39	92.9%

平成19年度

学科	入学時人数	卒業人数 (5年間)	卒業率 (5年間)	卒業人数 (留年生も含む)	卒業率 (留年生も含む)
機械工学科	41	36	87.8%	38	92.7%
電気情報工学科	41	37	90.2%	37	90.2%
都市システム工学科	41	33	80.5%	34	82.9%
建築学科	41	40	97.6%	40	97.6%

平成20年度

学科	入学時人数	卒業人数 (5年間)	卒業率 (5年間)	卒業人数 (留年生も含む)	卒業率 (留年生も含む)
機械工学科	43	42	97.7%	42	97.7%
電気情報工学科	42	42	100.0%	42	100.0%
都市システム工学科	41	35	85.4%	37	90.2%
建築学科	40	33	82.5%	38	95.0%

平成21年度

学科	入学時人数	卒業人数 (5年間)	卒業率 (5年間)	卒業人数 (留年生も含む)	卒業率 (留年生も含む)
機械工学科	43	41	95.3%	41	95.3%
電気情報工学科	41	36	87.8%	36	87.8%
都市システム工学科	41	37	90.2%	37	90.2%
建築学科	42	34	81.0%	34	81.0%

(注) 卒業率は卒業人数を入学人数で割り 100 掛けたものである。

表4-1-3 専攻科課程修了学生の学位取得状況

修了年度	修了者数			学位修得者数		
	ME専攻	AC専攻	合計	ME専攻	AC専攻	合計
平成18年	10	13	23	10	13	23
平成19年	15	10	25	15	10	25
平成20年	11	10	21	11	10	21
平成21年	18	15	33	18	15	33
平成22年	15	12	27	15	12	27
合計	69	60	129	69	60	129
学士修得率	100.0%			100.0%		

ME専攻：機械・電子システム工学専攻

AC専攻：建築・都市システム工学専攻

表4-1-4 危険物取扱者乙4種試験結果（平成18年度～平成22年度）

年度	18年度	19年度	21年度	22年度
受講対象学年学生数（人）	2年生163	2年生161	3年生159	3年生161
受験者（人）	161	159	138	144
資格取得者（人）	143	150	121	121
資格取得率（%）	88.8	94.3	87.7	84.0

（注）平成19年度までは 受験対象は2年生であったがカリキュラムの改変により3年生に変更されたので平成20年度は対象学年が存在しない。

表4-1-5 TOEIC IPテスト成績一覧

【平成18年5月24日実施】

学年	受験者数	平均点		
		リスニング	リーディング	トータル
3年	39	250.05	174.36	424.42
4年	124	244.68	148.45	393.13
5年	87	262.36	179.42	441.03
専1	20	255.42	171.25	426.67
専2	11	252.08	163.75	275.83

【平成18年12月13日実施】

学年	受験者数	平均点		
		リスニング	リーディング	トータル
3年	79	244.08	155.81	399.90
4年	161	253.83	164.83	418.66
5年	49	255.10	180.40	435.51
専1	8	235.83	139.38	375.21

【平成19年5月16日実施】

学年	受験者数	平均点		
		リスニング	リーディング	トータル
3年	28	257.49	161.44	418.95
4年	125	240.78	154.53	395.28
5年	78	252.27	168.61	423.26
専1	25	253.17	182.04	435.21
専2	9	250.56	165.00	415.56

【平成19年12月12日実施】

学年	受験者数	平均点		
		リスニング	リーディング	トータル
3年	112	225.89	154.31	380.24
4年	162	239.75	177.25	417.02
5年	29	247.94	193.97	441.88
専1	9	232.77	180.57	413.33
専2	3	196.67	126.67	323.33

【平成20年5月14日実施】

学年	受験者数	平均点		
		リスニング	リーディング	トータル
3年	50	221.21	157.81	379.02
4年	119	232.75	158.87	391.65
5年	85	246.31	197.50	443.80
専1	32	241.27	185.00	426.22

【平成20年12月10日実施】

学年	受験者数	平均点		
		リスニング	リーディング	トータル
3年	110	232.19	145.50	377.69
4年	167	254.36	163.60	418.06
5年	23	296.10	216.53	512.63
専1	4	326.40	231.28	557.55
専2	2	177.50	125.00	302.50

【平成21年5月13日実施】

学年	受験者数	平均点		
		リスニング	リーディング	トータル
3年	67	219.34	165.40	384.70
4年	140	226.16	164.02	390.18
5年	103	247.44	194.26	441.76
専1	26	250.76	188.04	438.85
専2	4	309.98	271.25	581.23

【平成 21 年 11 月 18 日実施】

学年	受験者数	平均点		
		リスニング	リーディング	トータル
3年	68	213.72	146.06	359.82
4年	157	244.64	179.03	423.67
5年	48	252.90	188.32	441.24
専1	6	265.85	225.00	490.85
専2	1	190.00	170.00	360.00

【平成 22 年 5 月 19 日実施】

学年	受験者数	平均点		
		リスニング	リーディング	トータル
3年	46	229.11	147.72	376.83
4年	139	238.01	169.45	407.45
5年	99	247.20	202.31	449.52
専1	33	270.30	198.82	469.12
専2	1	400.00	410.00	810.00

【平成 22 年 11 月 24 日実施】

学年	受験者数	平均点		
		リスニング	リーディング	トータル
3年	92	233.20	144.18	377.37
4年	164	255.40	182.23	437.67
5年	55	247.65	204.98	452.62
専1	5	234.00	142.98	376.98
専2	1	245.00	145.00	390.00

資料4-1-3

明石工業高等専門学校専攻科研究年報

第12号(平成21年3月)

目次(抜粋)

雑音環境下における生活音識別システムの開発	(1)
冷風加工法の内面研削加工法への適用	(7)
可視発光するp+型ポーラスシリコンの陽極化成の条件	(13)
ヒストグラムを利用した可逆な電子透かしの改良に関する研究	(67)
高強度鋼の疲労き裂における表面観察	(73)
落差工の改変に伴う上流河道の応答特性に関する実験的研究	(103)
地域間交通の距離抵抗性	(109)

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

専攻科学生の学会発表等状況

(出典 明石工業高等専門学校専攻科研究年報 第12号)

表4-1-6 専攻科生の学会発表等(抜粋)

論文名等	学会・論文集等名称
生活音識別システム開発のための検討	第52回システム制御情報学会研究発表会(2009.5.16)
可視発光するP+型ポーラスシリコンの陽極化成電圧の条件	2009年春季 第56回応用物理学会関係連合講演会(2009)
円柱杭式波浪制御構造物の透過率について	日本流体学会年会 2008,2008年9月
石積み水制群周辺の流れと局所洗堀に関する研究	第14回高専シンポジウム(2008.1.24)
低周波数による転圧効果と密度管理	建設技術展 2008

(出典 明石工業高等専門学校専攻科研究年報 第12号)

表4-1-7 学生の表彰状況（体育大会等の表彰は除く）

賞	年度				
	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
日本機械学会・畠山賞	1	1	1	1	1
日本建築協会賞	1	1	1	1	1
全国高専土木工学会・近藤賞	1	1	1	1	1
土木学会全国大会学術講演会・優秀講演者	1				3
国立高専機構表彰	3				
土木学会関西支部学術講演会・優秀発表賞	1		1		
産学官技術フォーラム・優秀ポスター賞	4	3	1	1	1
産学官技術フォーラム・優秀オーラル賞	1	2		1	1
産学官技術フォーラム・優秀プレゼン賞			1		
全国高等専門学校デザインコンペティション・最優秀賞	5		5		1
全国高等専門学校デザインコンペティション・優秀賞	5	5	6	1	1
ニッケ Pure Heart エッセー大賞・入賞	1				
日本建築学会設計競技タジマ奨励賞	3				
「アートポートステーション・西元町」第4回大壁画コンペ・大賞		1			
「ACM/ICPC」アジア予選東京大会進出16位/50チーム		3			
大阪芸術大学主催『“世紀のダ・ヴィンチを探せ！”高校生アートコンペティション2007』金賞		1			
「シェルター学生設計競技2007」奨励賞		8			
全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト（スピーチの部）第2位		1			
高専連携教育研究プロジェクト学生成果発表会 豊橋技術科学大学 学長表彰			1		
日本高専学会 論文奨励賞最優秀賞			1	1	1
日本高専学会年会講演会 ポスターセッションの部 優秀賞			1		1
「日本建築学会設計競技『記憶の器』」タジマ奨励賞			3		
日本建築家協会「全国学生卒業設計コンクール」審査員特別賞			1		
日本建築家協会近畿支部「学生卒業設計コンクール」佳作			1		
パソコン甲子園2009 第5位				2	
学生CGコンテスト 静止画像部門 奨励賞				1	
京都大学ベンチャー・ビジネスラボラトリー・「テクノ愛」発明&事業化プランコンテスト 入賞				1	2
日本材料学会地盤改良シンポジウム優秀発表賞					1

1.3 就職・進学状況からみた教育の成果

卒業（修了）後の進路状況を表4-1-8に示す。その他は平成19年度と平成22年度（見込）でやや高いが、他の年度では5%前後で推移している。進学率と就職率は、進学率が70%前後、就職率が25%前後であり、5年前と比べて進学率が多くなっている。その他が少なく、進路状況は非常に良好である。

表4-1-8 卒業（修了）後の進路状況

	準学士課程			専攻科課程		
	進学者(人) (進学率(%))	就職者(人) (就職率(%))	その他(人) (%)	進学者(人) (進学率(%))	就職者(人) (就職率(%))	その他(人) (%)
平成18年度	98 (59.4)	59 (35.8)	8 (4.8)	14 (60.9)	8 (34.8)	1 (4.3)
平成19年度	108 (69.2)	35 (22.4)	13 (8.3)	14 (56.0)	10 (40.0)	1 (4.0)
平成20年度	118 (72.0)	42 (25.6)	4 (2.4)	16 (76.2)	5 (23.8)	0 (0.0)
平成21年度	117 (71.3)	38 (23.2)	9 (5.5)	21 (67.7)	8 (25.8)	2 (6.5)
平成22年度	119 (74.4)	32 (20.0)	9 (5.6)	14 (48.3)	15 (51.7)	0 (0.0)

卒業（修了）後の就職者の業種を表4-1-9に示す。業種は多方面に広がっているが、傾向として、機械工学科は製造業関連、電気情報工学科は電気・通信業関連、都市システム工学科は建設・通信業関連、建築学科は建設業関連の比率が多いことが分かる。

大学編入学者の一覧表を表4-1-10に示す。5年前は、関西地区の有名大学および技科大学への編入が多かったが、近年は進学希望者も増えたこともあり、全国各地に広がっている。就職者及び進学者の進路先は、各工学技術分野を中心に多方面にわたっているが、いずれも本校の教育目的において意図する能力を十分に活用しうる場であり、教育の成果や効果が進路先に十分評価されているものと考えられる。

表4-1-9 卒業・修了生の進路状況

平成18年度

区分	学科	機械 工学科	電気情 報工学 科	都市シ ステム 工学科	建築 学科	小 計	機械・電 子シス テム工 学専 攻	建築・都 市シス テム工 学専 攻	計
	求人数	576	671	141	181	1,569	181	181	1,931
産 業 別	建設業			12	9	21		4	25
	製造業	17	3			20	3		23
	電気・ガス・水道業	2	1	3	2	8			8
	運輸・通信業	2	2	2	1	7	1		8
	サービス業		1			1			1
	その他					1			1
	公務			1		1			1
	計	21	7	18	13	59	4	4	67
	進学者	21	35	18	24	98	5	9	112
	その他	1	2	2	3	8	1		9

平成19年度

区分		学科				計	機械・電子システム工学専攻	建築・都市システム工学専攻	計
		機械工学科	電気情報工学科	都市システム工学科	建築学科				
求人数		625	983	272	250	2,130	241	142	383
産業別	建設業			4	9	13		3	3
	製造業	5	3	3	1	12	7		7
	電気・ガス・水道業	1		2		3			0
	運輸・通信業		1	4		5			0
	サービス業					0			0
	その他			1		1			0
	公務				1	1			0
計		6	4	14	11	35	7	3	10
進学者		28	29	18	33	108	7	7	14
その他		3	4	4	2	13	1	0	1

平成20年度

区分		学科				計	機械・電子システム工学専攻	建築・都市システム工学専攻	計
		機械工学科	電気情報工学科	都市システム工学科	建築学科				
求人数		581	601	290	259	1,731	238	40	278
産業別	建設業				6	6			0
	製造業	9	6			15	4		4
	電気・ガス・水道業	3	1	1	3	8			0
	運輸・通信業	1	2	2	1	6	1		1
	専門・技術サービス業	1		2		3			0
	その他		1			1			0
	公務	1			2	3			0
計		15	10	5	12	42	5	0	5
進学者		33	34	29	22	118	6	10	16
その他			1	3		4			0

平成21年度

区分		学科				計	機械・電子システム工学専攻	建築・都市システム工学専攻	計
		機械工学科	電気情報工学科	都市システム工学科	建築学科				
求人数		431	436	178	159	1,204	308	116	424
産業別	建設業			2	5	7		2	2
	製造業	5	3			8	5		5
	電気・ガス・水道業	2	2	1	3	8			0
	運輸・通信業		2	4	2	8			0
	専門・技術サービス業	1			2	3			0
	その他					0			0
	公務	1	1		2	4		1	1
計		9	8	7	14	38	5	3	8
進学者		34	26	33	24	117	11	10	21
その他		1	3	2	3	9		2	2

平成22年度

区分	学科	機械 工学科	電気情 報工学 科	都市シ ステム 工学科	建築 学科	計	機械・電 子システ ム工学専 攻	建築・都 市システ ム工学専 攻	計
	求人数	488	397	204	170	1,259	237	194	431
産 業 別	建設業	1	1	7	3	12		3	3
	製造業	5	3	1		9	7	1	8
	電気・ガス・水道業		1		2	3			0
	運輸・通信業			2	2	4	2	1	3
	専門・技術サービス業	1				1		1	1
	その他				1	1			0
	公務				2	2			0
	計		7	5	10	10	32	9	6
	進学者	31	35	29	24	119	7	7	14
	その他	2	3	1	3	9	0	0	0

表4-1-10 卒業生の大学編入学先

()内は合格者数

[国公立大学]

大 学 名	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	大 学 名	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
北 海 道 大 学	2 (2)	1 (2)	1 (1)	2 (2)	2 (2)	滋 賀 大 学			1 (1)		
弘 前 大 学				(1)		京 都 大 学	4 (4)	3 (3)	4 (4)	2 (2)	2 (2)
東 北 大 学	4 (4)	2 (2)	3 (4)	4 (5)	1 (1)	京 都 工 芸 繊 維 大 学	1 (2)	3 (3)	3 (3)	4 (5)	
茨 城 大 学			1 (1)			大 阪 大 学	11 (12)	12 (15)	9 (15)	13 (15)	15 (18)
山 形 大 学					(1)	神 戸 大 学	9 (16)	9 (13)	13 (17)	12 (14)	14 (17)
筑 波 大 学	(2)	3 (6)	5 (8)	3 (5)	2 (4)	奈 良 女 子 大 学		1 (2)	3 (3)	2 (2)	1 (2)
埼 玉 大 学				(1)		和 歌 山 大 学	(1)	(1)	1 (1)	1 (3)	1 (2)
千 葉 大 学	1 (5)	4 (8)	6 (13)	3 (9)	3 (7)	鳥 取 大 学				2 (2)	
東 京 大 学	2 (2)		2 (2)	1 (1)	6 (6)	岡 山 大 学	4 (5)	5 (7)	5 (8)	1 (1)	3 (4)
東 京 農 工 大 学		(1)	1 (1)	(1)	1 (1)	広 島 大 学	4 (4)	3 (5)	2 (5)	4 (5)	3 (5)
東 京 工 業 大 学	2 (2)	(1)	2 (3)	1 (1)	1 (1)	山 口 大 学		1 (1)	2 (3)	2 (2)	(2)
東 京 海 洋 大 学					1 (1)	徳 島 大 学	2 (3)	1 (1)	5 (5)	2 (2)	3 (3)
お茶の水女子大学	1 (1)					香 川 大 学				1 (1)	
電 気 通 信 大 学		(1)	1 (1)			九 州 大 学	3 (5)	2 (2)	1 (4)	2 (3)	4 (6)
横 浜 国 立 大 学	(1)	2 (2)	3 (5)	(2)	2 (2)	九 州 工 業 大 学					1 (1)
新 潟 大 学		(2)				大 分 大 学			1 (1)		
長岡技術科学大学	(3)	1 (2)	1 (3)	2 (5)	1 (1)	佐 賀 大 学	1 (1)		1 (2)		
山 梨 大 学					1 (2)	鹿 児 島 大 学	(1)	1 (1)	1 (1)		
信 州 大 学			(1)	1 (1)	1 (1)	首 都 大 学 東 京		1 (2)	2 (2)		1 (1)
富 山 大 学		(1)				滋 賀 県 立 大 学				1 (2)	
金 沢 大 学	(1)					京 都 府 立 大 学				1 (1)	
福 井 大 学	4 (4)	1 (2)	2 (3)	1 (2)	(1)	京 都 市 立 芸 術 大 学				1 (1)	
岐 阜 大 学		1 (1)	1 (5)	1 (1)	2 (2)	大 阪 市 立 大 学		1 (2)			
静 岡 大 学		(1)	1 (2)		2 (2)	大 阪 府 立 大 学	(1)	(1)	1 (3)	(2)	
名 古 屋 大 学	(1)		(3)	1 (1)	(2)	兵 庫 県 立 大 学	2 (2)	1 (1)	1 (2)	(1)	
名古屋工業大学	(1)	1 (2)	(1)	(5)		岡 山 県 立 大 学		2 (2)			
豊橋技術科学大学	10 (20)	10 (25)	5 (22)	7 (15)	12 (24)	高 知 工 科 大 学					1 (1)
三 重 大 学	1 (1)	1 (1)	2 (3)		1 (1)	合 計	68 (107)	73 (122)	93 (162)	78 (122)	88 (126)

[私立大学]

大 学 名	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	大 学 名	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
立 命 館 大 学	2 (2)	1 (1)	2 (2)			同 志 社 大 学	1 (1)				
関 西 大 学		1 (2)		1 (1)		鳥 取 環 境 大 学		1 (1)			
						合 計	3 (3)	3 (4)	2 (2)	1 (1)	0

1.4 学生による学習達成度評価及び授業アンケート結果からみた教育の成果

学生による学習目標の設定及び達成度評価としては、平成15年度から「学習目標達成度自己評価シート」を用いて、定期試験ごとに達成度を評価している。準学士課程低学年（第3学年以下）は、定期試験ごとに目標と評価・反省を記述させるものであり、準学士課程高学年（第4学年以上）及び専攻科課程では、前・後期ごとに記述式と学習目標ごとの点数評価項目を設けている。これにより、学生は各学習目標に対する達成度を自ら評価し、その結果を次年度以降の目標設定及び学習方法の改善に反映させている。平成17～21年度までの準学士課程高学年及び専攻科課程における評価結果を集計したものを表4-1-11に示す。

表4-1-11 学生による学習目標の達成度評価結果（抜粋）

平成17年度

学習目標	準学士課程				専攻科課程			
	第4学年		第5学年		第1学年		第2学年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(A)共生に配慮できる豊かな人間性と健康な心身	1.47	1.51	1.62	1.77	1.57	1.67	1.80	1.85
(B)国際性と指導力	1.12	1.28	1.29	1.48	1.23	1.33	1.45	1.70
(C)技術者倫理	0.98	1.16	1.23	1.51	1.07	1.56	1.65	1.85
(D)基礎学力と自主的・継続的学習能力	1.04	1.15	1.31	1.54	1.30	1.38	1.50	1.80
(E)コミュニケーション能力	0.92	1.10	1.13	1.42	1.03	1.18	1.05	1.80
(F)柔軟かつ創造的な設計能力	1.17	1.28	1.33	1.58	1.13	1.41	1.45	1.80
(G)実践的な問題解決能力	1.30	1.37	1.44	1.67	1.22	1.64	1.35	1.80
(H)多次元的なシステム思考	1.07	1.18	1.28	1.59	1.18	1.24	1.15	1.80

評価点：十分達成できた(2点)、普通(1点)、達成できなかった(0点)

平成18年度

学習目標	準学士課程				専攻科課程			
	第4学年		第5学年		第1学年		第2学年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(A)共生に配慮できる豊かな人間性と健康な心身	1.34	1.44	1.47	1.52	1.61	1.78	1.74	1.90
(B)国際性と指導力	1.07	1.25	1.20	1.28	1.67	1.70	1.13	1.79
(C)技術者倫理	1.12	1.19	1.25	1.42	1.36	1.68	1.38	1.79
(D)基礎学力と自主的・継続的学習能力	1.14	1.34	1.35	1.37	1.48	1.68	1.33	1.79
(E)コミュニケーション能力	0.87	1.03	1.12	1.24	1.07	1.35	1.28	1.85
(F)柔軟かつ創造的な設計能力	1.17	1.28	1.29	1.36	1.48	1.77	1.60	1.79
(G)実践的な問題解決能力	1.27	1.34	1.31	1.45	1.39	1.74	1.63	1.84
(H)多次元的なシステム思考	1.04	1.22	1.22	1.38	1.38	1.68	1.56	1.79

評価点：十分達成できた(2点)、普通(1点)、達成できなかった(0点)

平成19年度

学習目標	準学士課程				専攻科課程			
	第4学年		第5学年		第1学年		第2学年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(A)共生に配慮できる豊かな人間性と健康な心身	1.42	1.53	1.58	1.59	1.57	1.58	1.90	2.00
(B)国際性と指導力	1.19	1.36	1.18	1.26	1.17	1.37	1.70	2.00
(C)技術者倫理	1.16	1.28	1.37	1.45	1.19	1.57	1.78	1.95
(D)基礎学力と自主的・継続的学習能力	1.27	1.40	1.42	1.47	1.37	1.42	1.68	2.00
(E)コミュニケーション能力	1.00	1.22	1.20	1.30	1.03	1.07	1.35	1.95
(F)柔軟かつ創造的な設計能力	1.23	1.36	1.34	1.42	1.27	1.32	1.70	2.00
(G)実践的な問題解決能力	1.29	1.44	1.43	1.46	1.35	1.46	1.63	2.00
(H)多次元的なシステム思考	1.17	1.28	1.32	1.45	1.25	1.39	1.62	2.00

評価点：十分達成できた(2点)、普通(1点)、達成できなかった(0点)

平成20年度

学習目標	準学士課程				専攻科課程			
	第4学年		第5学年		第1学年		第2学年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(A)共生に配慮できる豊かな人間性と健康な心身	1.32	1.47	1.59	1.68	1.67	1.70	1.50	1.82
(B)国際性と指導力	0.99	1.24	1.33	1.48	1.18	1.33	1.36	1.86
(C)技術者倫理	0.98	1.18	1.35	1.51	1.49	1.76	1.59	1.82
(D)基礎学力と自主的・継続的学習能力	1.02	1.29	1.45	1.49	1.39	1.54	1.41	1.82
(E)コミュニケーション能力	0.81	1.10	1.40	1.44	1.27	1.40	1.23	1.91
(F)柔軟かつ創造的な設計能力	1.10	1.26	1.38	1.49	1.52	1.61	1.45	1.82
(G)実践的な問題解決能力	1.17	1.39	1.45	1.59	1.49	1.61	1.45	1.86
(H)多次元的なシステム思考	1.01	1.24	1.36	1.49	1.51	1.61	1.27	1.73

評価点：十分達成できた(2点)、普通(1点)、達成できなかった(0点)

平成21年度

学習目標	準学士課程				専攻科課程			
	第4学年		第5学年		第1学年		第2学年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(A)共生に配慮できる豊かな人間性と健康な心身	1.56	1.59	1.55	1.61	1.38	1.78	1.64	1.72
(B)国際性と指導力	1.28	1.35	1.31	1.38	1.47	1.48	1.46	1.47
(C)技術者倫理	1.15	1.30	1.33	1.46	1.51	1.72	1.58	1.79
(D)基礎学力と自主的・継続的学習能力	1.41	1.50	1.45	1.53	1.40	1.52	1.70	1.66
(E)コミュニケーション能力	1.06	1.25	1.34	1.40	1.45	1.53	1.34	1.51
(F)柔軟かつ創造的な設計能力	1.37	1.42	1.39	1.52	1.55	1.72	1.58	1.75
(G)実践的な問題解決能力	1.34	1.46	1.46	1.56	1.46	1.65	1.58	1.66
(H)多次元的なシステム思考	1.33	1.41	1.40	1.52	1.51	1.68	1.61	1.72

評価点：十分達成できた(2点)、普通(1点)、達成できなかった(0点)

学生による授業アンケートは、準学士課程では平成8年度から、専攻科課程では平成12年度から実施しており、その中で学習の達成度に関する項目は表4-1-12のようである。平成17～21年

度の結果について、学年ごとの評価点の平均値をまとめたものを表4-1-13に示す。

表4-1-12 学習の達成度に関する授業アンケート項目（抜粋）

準学士課程	8. 自分の目標を達成できましたか。	5 ————— 4 ————— 3 ————— 2 ————— 1 十分達成できた 普通 殆ど達成できなかった
専攻科課程	2. あなたは授業のねらい〔学習目標〕をどの程度達成していますか。	5 ————— 4 ————— 3 ————— 2 ————— 1 十分達成している 達成している ほとんど達成していない

表4-1-13 学習の達成度に関する授業アンケート結果（抜粋）

	学年	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度
準学士課程	1	3.37	3.45	3.65	3.45	3.65
	2	3.39	3.30	3.50	3.27	3.49
	3	3.33	3.47	3.38	3.33	3.73
	4	3.39	3.38	3.45	3.39	3.52
	5	3.62	3.54	3.45	3.46	3.53
専攻科課程	1					3.25
	2					3.34

学生による学習目標の達成度評価では、表4-1-11の学習目標(A)～(H)の全てにおいて、どの年度においても、学年が高くなるにつれて評価点が上昇している。準学士課程の卒業時には各学習目標において、2点満点で1.2～1.7程度の達成度となっている。5年前の達成度が1.1～1.6程度だったことと比較して上昇している。専攻科修了時点では、各学習目標達成度の評価点はさらに上昇している。

学生が授業科目ごとに設定した学習目標に対する達成度については、表4-1-13の授業アンケート集計結果に見られるように、準学士課程及び専攻科課程ともに、5段階評価で3.2以上の評価（達成度）を示している。これも5年前と比較して上昇している。

1.5 卒業生及び進路先企業等のアンケート結果からみた教育の成果

卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取する取組は、アンケート調査を中心に実施している。表4-1-14に示すように、対象は主に平成19・20・21年度の卒業（修了）生及び進路先の関係者としている。アンケート内容は明石高専の教育目的に対して高専で受けた教育の反映度、及び、学習・教育目標の重要度をそれぞれ5段階評価で示すものとし、又、自由記述欄も設けている。

表4-1-14のうち(A)・(B)・(C)のアンケート調査のそれぞれの集計結果を表4-1-15～表4-1-17に、(D)の懇談会録を資料4-1-4に示す。また、(A)・(B)・(C)の結果を、教育目的の反映度、学習・教育目標の重要度、進路先の評価度についてそれぞれまとめ直したものを表4-1-18～表4-1-20に示す。

表4-1-14 教育の成果に関する調査

調査	意見聴取対象	対象 卒業(修了)年度	回答数	実施日	設問内容	評価方法
(A)						
1	全学科卒業生	平成 19・20・21年度	144	平成 22年11月	・アンケート形式 ・明石高専の教育目的の達成度、 及び、学習・教育目標に対す る重要度	5段階評価 と 自由記述
2	全学科卒業生の 進路先企業	同上	41	同上	同上	同上
(B)						
1	修了生	平成 19・20・21年度	41	平成 22年11月	・アンケート形式 ・明石高専の教育目的の達成度、 及び、学習・教育目標に対す る重要度	5段階評価 と 自由記述
2	修了生の 進路先企業	同上	14	同上	同上	同上
3	修了生の 進路先大学院	同上	29	同上	同上	同上
(C)						
	学寮OB	昭和44- 平成21年度	19	平成 22年10月	・アンケート形式 ・明石高専の教育目的の達成度、 及び、学習・教育目標に対す る重要度	5段階評価 と 自由記述
(D)						
	全学科卒業生	平成 19・20・21年度	8	平成 22年10月	・懇談会形式 ・明石高専の教育とその効果	自由陳述
(E)						
	土木及び都市シ ステム工学科 全卒業生	昭和41- 平成17年度	129	平成 18年11月	・アンケート形式 ・必要な資格とカリキュラム上 の重要点	段階評価 選択肢 自由記述

表4-1-15 教育の成果に関する調査(A)の結果 (抜粋)
教育目的の反映度 (%)

対象	教育目的	明石高専の授業やカリキュラムへの反映度合				
		反映されて いる	どちらかとい えば反映され ている	どちらとも いえない	どちらかとい えば反映され ていない	反映されて いない
卒業生	健康な心身と人間性	15	39	33	11	3
	問題解決能力	17	51	30	2	0
	実践的な技術力	17	51	14	4	0
	国際性と指導力	3	21	42	28	6
企業	健康な心身と人間性	34	41	22	2	0
	問題解決能力	10	63	17	7	2
	実践的な技術力	10	59	24	5	2
	国際性と指導力	0	22	66	10	2

表4-1-16 教育の成果に関する調査(B)の結果 (抜粋)
教育目的の反映度 (%)

対象	教育目的	明石高専の授業やカリキュラムへの反映度合				
		反映されて いる	どちらかとい えば反映され ている	どちらとも いえない	どちらかとい えば反映され ていない	反映されて いない
修了生	健康な心身と人間性	20	37	32	12	0
	問題解決能力	22	59	17	2	0
	実践的な技術力	41	39	17	2	0
	国際性と指導力	0	26	35	35	4
企業	健康な心身と人間性	31	31	31	8	0
	問題解決能力	7	57	36	0	0
	実践的な技術力	7	50	29	14	0
	国際性と指導力	0	7	64	29	0
大学院	健康な心身と人間性	41	31	24	0	3
	問題解決能力	10	52	28	7	3
	実践的な技術力	31	52	10	3	3
	国際性と指導力	7	28	45	14	7

表 4-1-17 教育の効果に関する調査 (C) の結果 (抜粋)
教育目的の反映度 (%)

対象	教育目的	明石高専の授業やカリキュラムへの反映度合				
		反映されて いる	どちらかとい えば反映され ている	どちらとも いえない	どちらかとい えば反映され ていない	反映されて いない
学 寮	健康な心身と人間性	35	20	25	15	5
	問題解決能力	37	26	32	5	0
O	実践的な技術力	74	16	11	0	0
B	国際性と指導力	0	16	42	32	11

資料 4-1-4 卒業生との懇談会 (抜粋)

—高専での教育とその効果について—

- 司会 大学の教育目的、会社の企業目的を聞かせてもらえたら。
- M2 我々グループは創始者の名言・考えを各職場で毎朝読み上げて意識するようにしている。
- E1 弊社社長はオバマさんより先に“Yes, we can do.”と言ってきた。
技術力は後でいいから、自主性最優先とも言われている。
- E2 メデカル部門では、患者さんの体内を切ったりする機器を開発する。
だから、患者さんへの意識が一番。製品で言い換えれば、「品質第一」。
- C1 大学でも JABEE 審査があるので、文面を見ることはある。
高専の目標・目的と似たようなもの。
- C2 保線の部署にいる。安全迅速にお客を運ぶ。一言で、「お客様第一」。
また、保線は一人でできる仕事ではないのでコミュニケーション能力は大切。
- A1 今の大学の？ 高専の時から意識していなかった。
自分の意見として、個人個人がこれからどうしていくか目標を持つことだと思う。
- A2 「市民のために」、技術系なので直接市民ではなく企業との接触が多いが。
- M1 大学の研究室で言われている事だが、「研究力、人間力、国際力」。
まとめたら、高専と同じになる。

(出典：「卒業生との懇談会」録)

表4-1-18 教育目的の反映度（評価点平均値）

教育目的 ()内：回答数	健康な心身と 豊かな人間性	柔軟な 問題解決能力	実践的な 技術力	豊かな国際性 と 指導力
学科：平成19・20・21年度卒業				
卒業生 (144)	3.51	3.83	3.15	2.87
進路先企業 (41)	4.07	3.71	3.68	2.34
専攻科：平成19・20・21年度修了				
修了生 (41)	3.63	4.00	4.20	2.83
進路先企業 (14)	3.85	3.71	3.50	2.79
進路先大学院 (29)	4.07	3.59	4.03	3.14
学寮OB：昭和44—平成18年度卒業 (8)、平成19・20・21年度卒業 (11)				
学寮OB (19)	3.65	3.95	4.63	2.63
ま と め				
平成19・20・21年度卒業・修了 (196) 及び 昭和44年—平成18年度卒業 (8)				
卒業生+修了生+学寮OB (204)	3.55	3.88	3.50	2.83
卒業生企業+修了生企業 (55)	4.02	3.71	3.64	2.45
卒業・修了生企業+大学院 (84)	4.04	3.69	3.77	2.69

評価点

- 5：反映されている， 4：どちらかといえば反映されている， 3：どちらともいえない，
2：どちらかといえば反映されていない， 1：反映されていない

表4-1-19 学習・教育目標の重要度（評価点平均値）

重要度 ()内：回答数	豊かな人間性と健康な心身	国際性と指導力	技術者倫理	基礎学力と継続的学習能力	コミュニケーション能力	柔軟かつ創造的 設計能力	実践的問題解決能力	多次的システム思考
学科：平成19・20・21年度卒業								
卒業生 (144)	4.04	4.13	3.94	4.41	4.44	4.26	4.50	3.22
企業 (41)	4.76	4.20	4.05	4.85	4.83	4.15	4.49	3.88
専攻科：平成19・20・21年度修了								
修了生 (41)	4.24	4.15	4.17	4.49	4.61	4.54	4.41	4.00
企業 (14)	4.36	3.43	3.93	4.50	4.64	4.64	4.36	3.50
大学院 (29)	4.52	2.72	4.38	4.66	4.61	4.55	4.48	4.14
学寮OB：昭和44—平成18年度卒(8)、平成19・20・21年度卒(11)								
学寮OB (19)	4.16	3.95	4.26	4.37	4.39	3.72	3.63	3.16
ま と め								
平成19・20・21年度卒業・修了(196)及び昭和44年—平成18年度卒業(8)								
卒業生+修了生 +学寮OB (204)	4.09	4.12	4.02	4.42	4.47	4.32	4.46	3.44
卒業生企業+ 修了生企業 (55)	4.65	4.00	4.02	4.58	4.78	4.20	4.45	3.78
卒業・修了生 企業+大学院 (84)	4.61	4.15	4.12	4.61	4.72	4.32	4.46	3.90

評価点

5：重要，4：どちらかといえば重要，3：どちらともいえない，2：どちらかといえば重要でない，1：重要でない

表4-1-20 進路先の評価（評価点平均値）

()内：回答数	評価
卒業生：平成19・20・21年度卒業	
進路先企業 (41)	4.05
修了生：平成19・20・21年度修了	
進路先企業 (13)	3.85
進路先大学院 (28)	3.93
まとめ	
卒業生企業+修了生企業 (54)	4.00
卒業・修了生企業+大学院 (82)	3.98

評価点

5：大変よい，4：よい，3：普通，2：もう少し努力して，1：もっと高専で学習・教育の必要がある

表4-1-18のまとめより、教育目的項目「柔軟な問題解決能力」及び「実践的な技術力」に関しては、卒業（修了）生・進路先関係者ともにほぼ同じ反映度（3.6前後）としている。「健康な心身と豊かな人間性」に関しては、進路先関係者は卒業（修了）生よりも高い評価（4.0）を与えている。一方、「豊かな国際性と指導力」に関しては、卒業（修了）生は「(2.8で) どちらともいえない」と回答しているが、進路先関係者は「(2.5前後で) どちらかといえば反映されていない」寄りの低い評価に留まっている。「国際性」の反映度の低さに関連して、語学力、特に英語力の強化の必要性が、表4-1-15, 16, 17いずれの自由記述欄においても述べられている。

表4-1-19のまとめより、学習・教育目標項目である「国際性と指導力」・「技術者倫理」・「基礎学力と継続的学習能力」・「柔軟かつ創造的設計能力」・「実践的問題解決能力」に関しては、卒業（修了）生・進路先関係者ともに重要性に対する評価は「どちらかといえば重要（4以上）」でほぼ一致している。しかし、「豊かな人間性と健康な心身」及び「多次元システム思考」に関しては、卒業（修了）生よりも進路先関係者は重要性を高いとみなしている。「コミュニケーション能力」に関しては、卒業（修了）生も進路先関係者もともに一番重要であるとしている。卒業生との懇談会（資料4-1-4）においても、「実社会では技術系の仕事は殆んどグループワークなので、グループ内での意思の疎通がうまく図れるかどうかプロジェクトの成否にかかわる」との発言が相次いだ。実験・実習の一つのテーマにかける時間を現状より長期化し、グループで計画・実施・発表まで自主的に取り組める授業を増やし、コミュニケーション能力の育成を強化してはどうかという意見が出された。

表4-1-20のまとめより、進路先での評価は、卒業生進路先企業、修了生進路先企業、修了生進路先大学院のいずれにおいても「よい（4前後）」としている。しかし、全進路先関係者82回答のうち、3回答は「もう少し努力してほしい」・「もっと高専での学習・教育の必要がある」としている。教育目的への本校における教育の反映度に関しては、全4項目の評価点平均値は卒業（修了）生・進路先関係者ともに3.4となりほぼ一致しているが、学習・教育目標に対する重要度の評価に関しては、全8項目の平均値が卒業（修了）生は3.7となるのに対して、進路先関係者は4.3である。本校の掲げる学習・教育目標の重要性について学生の認識を更に深める必要がある。

2. 教育の状況についての点検・評価・改善システム

2.1 教育の状況の点検・評価の実施体制

教育活動に関するデータや資料の収集・蓄積は、FD委員会を中心とし、一部を校長が担当している（図4-2-1）。FD委員会では、教員から授業点検書及び教材開発の申告等を収集し、学生からは授業アンケート、目標達成度自己評価等を収集している（表4-2-1）。

校長は、教員から教育業績自己申告書、学生からは「意見箱」により意見・要望を受けている。さらに平成18年度から外部評価委員会を発展させた有識者懇談会から報告書（提言）（資料4-2-1）を受けている。収集された資料・データは、FD委員会のみならず将来計画・自己点検等委員会、教育研究活動評価等委員会、教務委員会、専攻科・JABEE委員会等で審議・評価し、教育の改善に反映させている。

図4-2-1 収集・蓄積等の実施体制

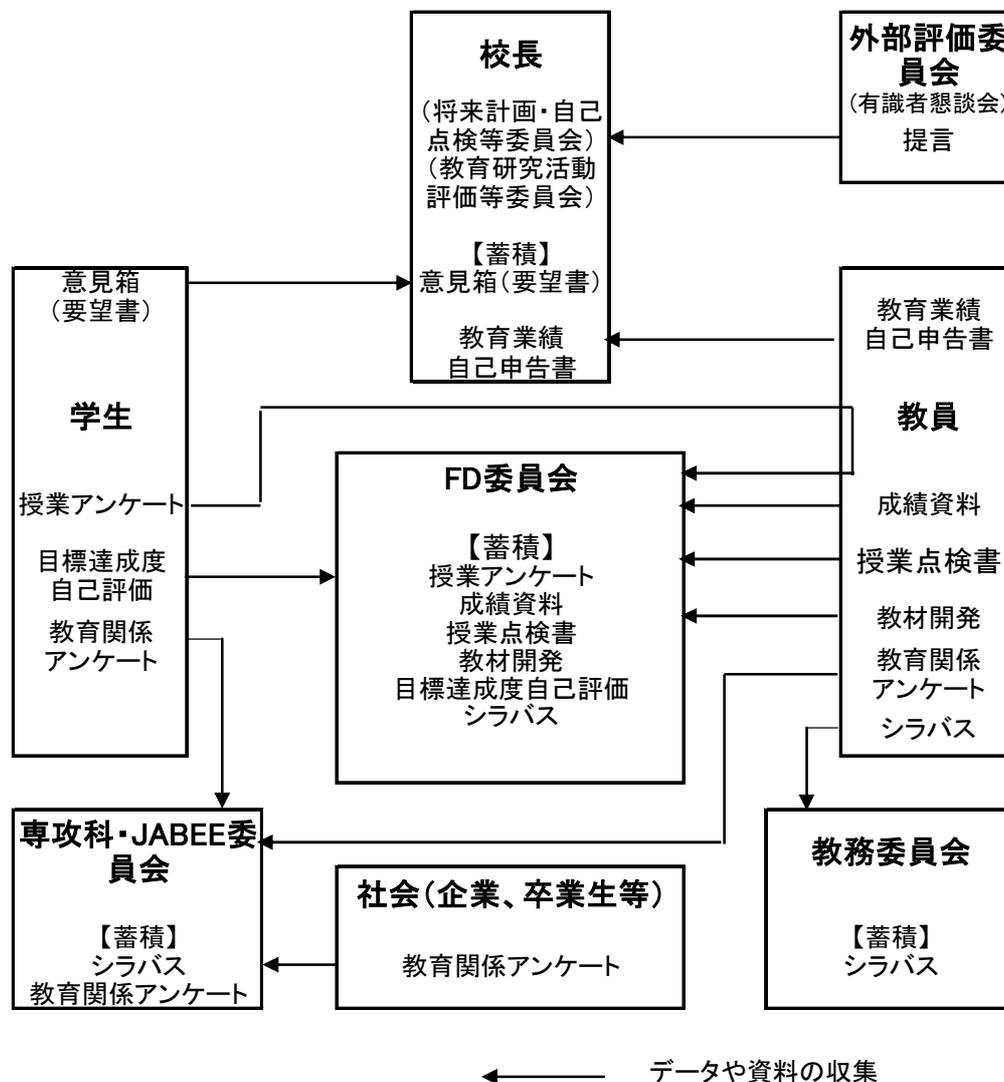


表4-2-1 教育活動の実態を示すデータや資料の収集・蓄積状況（平成18年度～平成22年度）

年度 データ、資料名	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	備考
授業アンケート (学科)	◎	◎	◎	◎	◎	平成8年度、平成10年度実施
授業アンケート (専攻科)	◎	◎	◎	◎	◎	平成22年度前期科目においてオンライン化
成績資料 (4,5年、専攻科1,2年)	◎	◎	◎	◎	◎	
成績資料 (1～3年)	◎	◎	◎	◎	◎	
授業点検書 (4,5年、専攻科1,2年)	◎	◎	◎	◎	◎	
授業点検書 (1～3年)	◎	◎	◎	◎	◎	
教育業績自己申告書	◎	◎	◎	◎	◎	
学生からの「学校に対する要望書」	○	○	○	○	○	
学生の「学習教育目標達成度自己評価」	◎	◎	◎	◎	◎	
教材開発の状況	○	○	○	○	○	

(◎：全部、○：一部)

資料4-2-1

有識者懇談会報告書（抜粋）

(入学志願者対策について)

高専に来たいという何かに特化してやりたいという生徒を選抜し、そういう生徒を育てていく方策を取ることも課題である。例えば中学校の成績でほかは悪かったけれども数学が飛びぬけて良かったとか、理科が特に良かったというようなところで入ってできるのであれば、そういう切り口というのも一つのやり方ではないか。

(明石高専のPRについて)

日本のものづくりをどう盛り上げるのか、という視点で兵庫県という日本有数の産業の基盤があるここで、明石高専の存在意義をアピールするのは大切なことだし、どんどんメディアを利用してもらったらい。

(出典 明石工業高等専門学校 有識者懇談会報告書 平成21年8月)

2. 2 学生および学外関係者の意見の自己点検・評価への反映

学生の意見を聴取する制度として、授業アンケート・学級担任・学生相談室・意見箱等がある。授業アンケートは毎年9月と2月に実施し、集計結果（学生の評価・問題点の指摘、担当教員の所見・授業改善案）を学内LANに公開している（資料4-2-2）。学級担任（又は副担任）は「担任マニュアル」「教員マニュアル」（資料4-2-3）に従い、また科目担当者はオフィスアワーを活用して、学生の意見を聴取する。学生相談室も設置し、利用されている。意見箱は学生玄関に設置し、回答が速やかに学生玄関に掲示されると共に学内LANでも公開される（資料4-2-4）。平成21年度の投書は15件、内容は学業・学校生活・課外活動など多岐にわたり、設備・授業・課外活動等で改善を図った。

資料4-2-2

学生による授業アンケート集計表（1授業分。各項目名中心に一部抜粋のみ）

○科目名（英語C）・クラス（4A）

質問項目	評価					回答数	平均	
	5	4	3	2	1			
問1 総合評価	15	15	7	0	0	37	4.22	
問2 説明の仕方・黒板の使い方	13	10	14	0	0	37	3.97	
問3 教科書や教材の選定	14	8	12	3	0	37	3.89	
問4 学生の理解度を確認していたか	13	14	10	0	0	37	4.08	
問5 授業に興味を持てるような工夫	17	7	13	0	0	37	4.11	
問6 シラバス通り行われたか	20	6	11	0	0	37	4.24	
問7 授業の目標を理解していたか	13	12	12	0	0	37	4.03	
問8 自分の目標を達成できたか	8	15	14	0	0	37	3.84	

○質問項目 問1（総合評価） 問2（説明の仕方） 問3（教材の選定） 問4（理解度の確認）
問5（興味を持たせる工夫） 問6（計画達成度） 問7（授業目標の理解） 問8（目標達成度）
以上の5段階評価（各設問の平均 3.84～4.24）

○自由記述（授業の良かった点と改善点。TOEICの演習をしたことで、実際のテストで効果があった。映画を使った授業があつて嬉しかった。授業内での時間配分がよかった。など）

○教員の講評（TOEICの演習と世界の祝祭を取り上げた2冊のテキストを使って、英語力を総合的に向上させることを目標にした。TOEICの演習は、実際の試験で役に立ったという声が多く、効果があったものと思われる。また、さまざまな祝祭についてのエッセイを読むことで、異なる文化や宗教への理解も深まったと思う。ただ、テキストのCDがnon-nativeによる吹き込みであったため、聞き取りにくかったという声があった。non-native間のコミュニケーションとして英語を使うことは大変多いので、敢えてこのテキストを選択した意図をもっと説明すべきであったと思う。）

資料4-2-3

「担任マニュアル」 (抜粋)

1. 学級運営

学級運営の心得

学生との人間的な触れ合いを大切に、できる限り接触の時間を多くとるよう心掛ける。その際、問題によっては毅然たる態度も必要であるが、偏見にとらわれず公平な態度で、受容の心をもって接する。

個々の学生の特質をよく理解し、発達過程を見守りながら、きめ細かい適切な指導を進める。ことに学業や生活面で問題を抱えている学生には積極的に働きかけ、学習意欲の育成・向上に努める。

『学生生活のてびき』等の配布物をよく読むよう指導し、諸手続の仕方、学校の規則などを理解させる。同時に、『シラバス』の活用を奨励し、それを通して自学自習の習慣を確立するよう、積極的な学習態度の育成に努める。

担当クラスを有機的な集団、すなわち学生相互の健全な連帯感に支えられた集団へと育成する。そのためには、学級のリーダーやムードメーカーとなりうる学生をいち早く見抜き、その活動を積極的に方向付け、支援していくことも有効な手段の一つである。(以下、略。中心的な表題のみ)

1-1. 基本的業務

年度当初の業務

3. 学習指導

3-1. 学生の成績履歴

学生の成績把握

3-2. 日常の学習指導

HRでの指導・個別指導・教科担当教員との連携

3-3. 定期試験時の指導

定期試験後の指導

4. 生活指導

4-5.

寮生指導の心得・寮務主事・寮務係との連携

4-9. 学生相談室・保健室等との連携

学生相談室との連携・保健室との連携

「教員マニュアル」(項目のみ抜粋)

1. 高等教育機関

2. 明石高専の特色と教育目的

3. 「共生システム工学」教育プログラム

4. 明石高専のアドミッションポリシーと学習・教育目

5. 組織と校務分担

6. 学級担任

7. 科目担当
8. 部活動の顧問
9. 学寮の宿日直
10. 教育活動への参加
11. 明石高専の情報、事務手続き

資料4-2-4

学校に対する要望書（抜粋）

20-3-1

要望：ハンドボール部に所属しているのですが、屋外のコートで部活をしているとき、夜になるとボールが見にくいのでグラウンドの照明をもっと明るく（多く）していただけないでしょうか。よろしくおねがいします。

回答：位置により、また季節や時間帯により練習時の照明の必要性は異なっていると思います。ご指摘にしたがい、照明や明るさの現状がどのような状態なのかをまず確認する必要があると思われる。調査時にはご協力をお願いします。

21-5-1

要望：電気棟入口の前にある喫煙室の場所を移設してほしい。校舎の入口でもあり、人がよく通る場所であるにもかかわらず、昼休みになると多くの学生がおり、周りが煙だらけで不快です。もっと人通りの無い場所へお願いします。

回答：いただいたご意見により、現状確認をいたしました。確かに出入口に近く、不快に思われる方もいらっしゃるようです。関係部署と検討し、撤去あるいは、出入り口から遠ざけるための移設工事を行うことといたしました。

学外関係者の意見は、主に進路先及び卒業生、修了生アンケートと企業・大学・行政からの委員で構成される有識者懇談会により聴取している。

進路先および卒業生、修了生アンケートは平成22年11月に実施し、84企業（大学院を含む）と184名の卒業生、修了生から回答を得た。また、平成22年10月に卒業生に対するインタビューを行っている。集計結果はFD委員会、専攻科・JABEE委員会合同で報告し、イントラに掲載した。（資料4-2-5）

有識者懇談会は、平成19年2月、平成20年10月、平成21年8月、平成22年9月に開催し、その協議内容は各回の「有識者懇談会報告書」（資料4-2-6）で報告した。

平成22年度有識者懇談会において、国際交流に関する提言がなされており、国際交流委員会及び各専門委員会においてその検討を行っている。これまでの経過として平成18年に国際交流委員会の設置を行い、本校における国際交流の円滑な推進を図る施策をとっており、中期計画の策定時に盛り込ん

でいる。(資料4-2-7)(資料4-2-8)

資料4-2-5

進路先および卒業生修了生アンケート結果(抜粋)

教育目的の反映度合(人)

対象者	教育目的	明石高専の授業やカリキュラムへの反映度合				
		反映されている	どちらかといえば 反映されている	どちらともい えない	どちらかといえば 反映されていない	反映されてい ない
卒業生	健康な心身と豊かな人間性	21	56	47	16	4
	柔軟な問題解決能力	25	73	43	3	0
	実践的な技術力	59	59	20	6	0
	国際性と指導力	4	30	61	41	8
企業	健康な心身と豊かな人間性	14	17	9	1	0
	柔軟な問題解決能力	4	26	7	3	1
	実践的な技術力	4	24	10	2	1
	国際性と指導力	0	9	27	4	1

資料4-2-6

有識者懇談会報告書(抜粋)

(国際交流に対する提言)

大学には「国際交流センター」というのがあり、学生がいつもそこをのぞいて、いろんな海外の情報を得たり、新教員の情報を得たりしていますが、貴校には国際交流センター設置の検討はどうか。

海外姉妹高専との留学生交換は授業料相互免除で学生を交換、単位の付与ということであれば、先方も賛成すると思います。

短期の語学研修はもちろん大事なんですけども、1年とか2年とかで、中長期の留学ができるような仕組みをつくる必要があるのではないかと。

県内大学コンソーシアムへの加盟を検討し、その海外語学研修を利用してはどうか。

(出典 明石工業高等専門学校 有識者懇談会報告書(提言)平成22年9月)

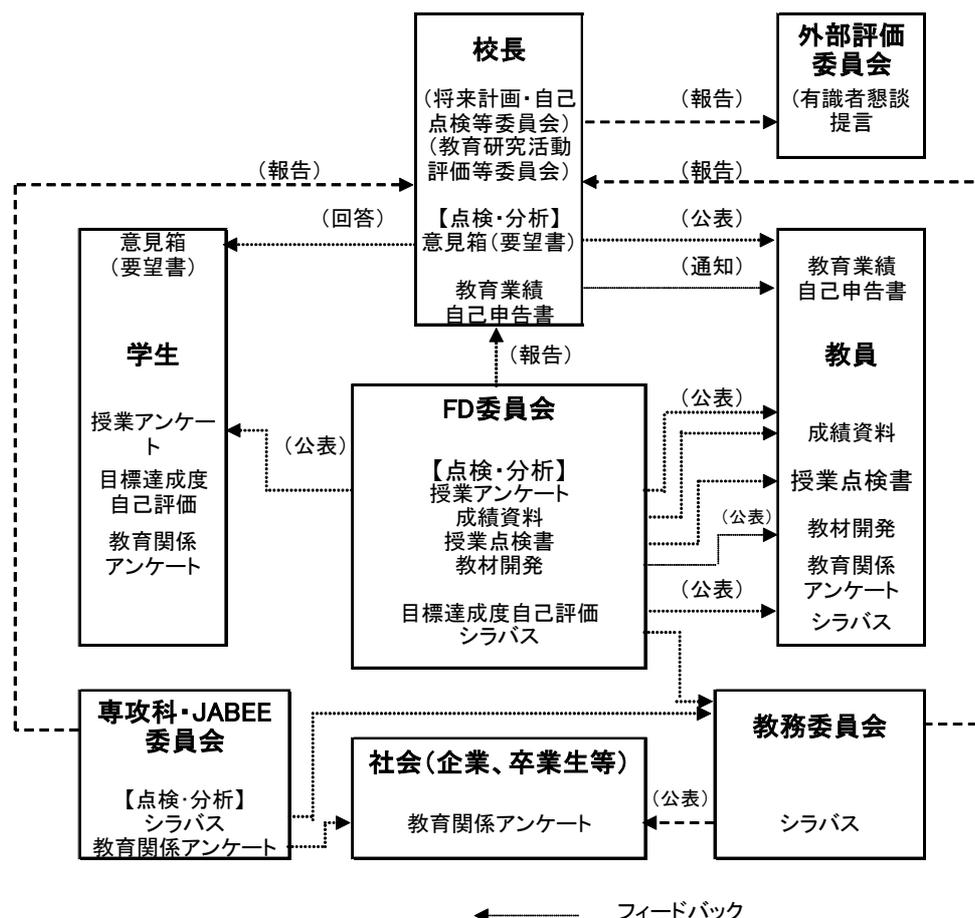
資料4-2-7		
中期計画（抜粋）		
(2) 教員・学生の海外研修への支援		
・教員の海外研修制度を充実し、海外の研究者・教育者との交流を検討する。	国際交流委員会	教員の国際会議発表などを奨励し、海外の研究者・教育者と本校教員間の交流を活発化を図る。
・学生の海外研修に対して配慮・支援する。	国際交流委員会	学生の海外研修に対して配慮・支援を継続すると共に、学生が研修を受けやすい環境の整備検討を行う。
（出典 明石工業高等専門学校 中期計画（平成21年9月17日版））		

資料4-2-8	
年度計画実施状況報告書（平成20年度）（抜粋）	
(2) 教員・学生の海外研修への支援	
・教員の海外研修制度を充実し、海外の研究者・教育者との交流を活発化する。	平成18年度から20年度にかけて、毎年1名の教員を在外研究員として欧米に派遣しており、研究・教育の活性化を図っている。
・学生の海外研修に対して配慮・支援する。	平成16年度よりカナダあるいはニュージーランドに19～35名（平成20年度は19名）の学生を派遣する3週間の語学研修を実施し、後援会からも費用の一部を援助していただいている。
（出典 明石工業高等専門学校 年度計画実施状況報告書（平成21年度））	

2.3 学習達成度評価及び授業アンケート等の結果による教育の質の向上と改善への取組

本校の各組織は全て校長直属の下、恒常的に校長を補佐し必要な点検改善を実施してきた（図4-2-2）。特に、教育課程の編成と教育計画の立案を担う教務委員会、専攻科・JABEE委員会、教育活動についての点検改善を担うFD委員会が恒常的な点検改善を行っている。

図4-2-2 点検改善の実施体制



FD委員会は「授業アンケート」「学習目標達成度自己評価」等から得た資料を分析し、その結果を教務委員会、専攻科・JABEE委員会に報告する。教務委員会、専攻科・JABEE委員会は、FD委員会から提出された報告や学生からの要望（意見箱から校長が選別）等をもとに教育課程の見直し等の審議を行っている。この他、平成6年以降、本校の活動に対する総合的な点検評価を自己点検・自己評価委員会(平成16年度から将来計画・自己点検等委員会に改組)を設けて行い、評価結果は平成11年3月に報告書（明石工業高等専門学校の現状と課題）として公表した。さらに、平成16年度に、教員の教育・研究活動の評価と運用に関する事項を検討するために教育研究活動評価等委員会を設置した。なお、H17年度認証評価における自己点検・評価報告書も公表し、学校全体で現状の課題等の抽出及び改善へ取り組んでいる。

2.4 教員の教育改善への取組

学生による評価としての授業アンケート結果は、冊子の形で公開され、平成14年度からは、授業方法等の8項目の5段階評価とともに学生の自由記述欄、及びそのまとめが学内LAN上で全て公開されている（資料4-2-9）。個々の教員は学生の授業アンケートによる評価結果に基づいて、教育の質の向上を図り、教授内容等の継続的改善を行っている。例えば、学生の授業評価において3未満の得点項目に関しては、改善策の提案を求めるシステムが確立している。また、各教員からは、自己評価としての授業点検書の提出が平成14年度から主として4年生以上の全科目に、平成16年度から全科目に義務付けられている（資料4-2-10、表4-2-2）。授業点検は学期ごとに実施され、教員相互の授業方法・成績評価等のチェック機能を果たしている。

さらに、独自の教材開発に対する自己申告制度を設けている（表4-2-3）。シラバスに関しては、学習・教育目標との整合性を図るため、専攻科・JABEE委員会にて常に再確認を行っている（資料4-2-11）。

資料4-2-9

学生による授業アンケート結果（学内LAN）

The screenshot shows a web browser window with the following content:

- Page Title:** FD委員会 授業アンケート【結果】
- Left Sidebar (Navigation):**
 - FD委員会
 - メンバー
 - お知らせ
 - 活動報告
 - 教員研修
 - 授業アンケート(実施要領等)
 - 授業アンケート(結果)
 - 授業の公開
 - 教科・学科
 - 成績資料
 - 目標達成度
 - 教材開発
 - その他
 - その他
- Main Content Area:**
 - [平成22年度授業アンケート結果](#)
 - [平成21年度授業アンケート結果](#)
 - [平成20年度授業アンケート結果](#)
 - [平成19年度授業アンケート結果](#)
 - [平成18年度授業アンケート結果](#)
 - [平成17年度授業アンケート結果](#)
 - [平成16年度授業アンケート結果](#)
 - [平成15年度授業アンケート結果](#)
 - [平成14年度授業アンケート結果](#)

資料4-2-10

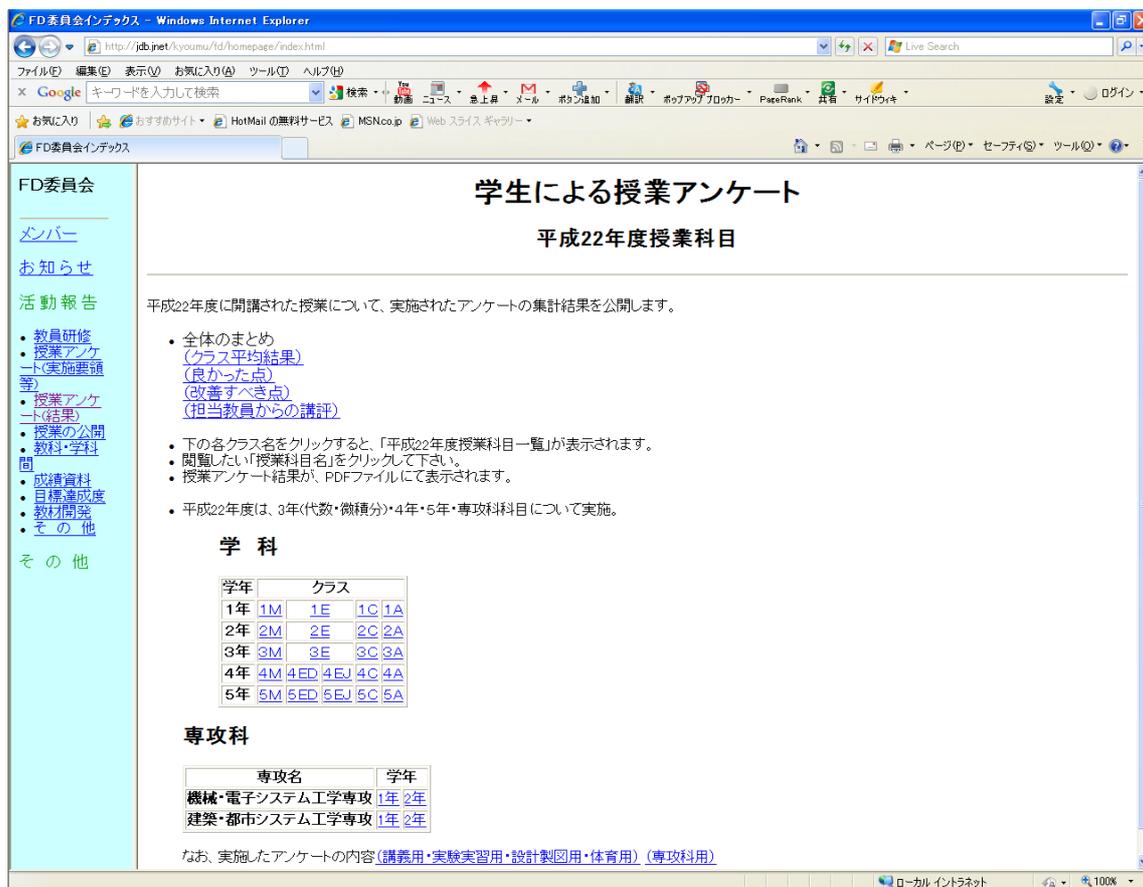


表4-2-2 授業点検集計表 (平成17年度～平成21年度)

平成17年度

	回答科目数	設問に「はい」と回答した科目数の割合(%)										
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
		学生に本授業科目の学習・教育目標を十	授業の冒頭でシラバスの内容を説明した	授業はシラバスの内容・順序どおりで実	適切な教材を用いているか?	学生の授業中の反応をチェックしている	レポートや小試験を実施しているか?	成績評価はシラバスどおり行ったか?	成績評価の根拠となる資料は残している	学生の興味や理解度を高めるために何か	学生からのアンケート結果を授業に反映	本授業科目の実施上で何か問題がある
一般科目	55	98	93	78	98	100	93	96	100	100	84	9
機械工学科	65	100	98	97	97	100	85	98	100	98	78	18
電気情報工学科	115	96	89	86	96	97	85	97	97	90	62	4
都市システム工学科	70	100	100	99	100	100	89	100	100	100	83	6
建築学科	53	96	100	98	98	98	92	100	100	89	70	11
全学科	358	98	95	91	97	99	88	98	99	95	73	9

IV 教育の成果及び改善システム

平成18年度

	回答科目数	設問に「はい」と回答した科目数の割合(%)										
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
		学生に本授業科目の学習・教育目標を十分理解させることが出来たか？	授業の冒頭でシラバスの内容を説明したか？	授業はシラバスの内容・順序どおりで実施できたか？	適切な教材を用いているか？	学生の授業中の反応をチェックしているか？	レポートや小試験を実施しているか？	成績評価はシラバスどおり行ったか？	成績評価の根拠となる資料は残しているか？	学生の興味や理解度を高めるために何か工夫をしているか？	学生からのアンケート結果を授業に反映させているか？	本授業科目の実施上で何か問題があるか？
一般科目	55	98	93	78	98	100	96	96	100	100	84	9
機械工学科	71	99	100	87	93	100	83	100	100	96	61	17
電気情報工学科	111	96	91	96	95	95	76	98	98	91	70	5
都市システム工学科	56	100	100	95	100	100	100	100	100	100	70	13
建築学科	55	93	96	95	95	95	89	96	96	85	67	11
全学科	348	97	95	91	96	98	86	98	99	94	70	10

平成19年度

	回答科目数	設問に「はい」と回答した科目数の割合(%)										
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
		学生に本授業科目の学習・教育目標を十分理解させることが出来たか？	授業の冒頭でシラバスの内容を説明したか？	授業はシラバスの内容・順序どおりで実施できたか？	適切な教材を用いているか？	学生の授業中の反応をチェックしているか？	レポートや小試験を実施しているか？	成績評価はシラバスどおり行ったか？	成績評価の根拠となる資料は残しているか？	学生の興味や理解度を高めるために何か工夫をしているか？	学生からのアンケート結果を授業に反映させているか？	本授業科目の実施上で何か問題があるか？
一般科目	62	98	100	95	95	100	84	100	98	94	85	11
機械工学科	59	83	83	77	83	85	69	83	85	75	62	9
電気情報工学科	114	91	91	86	89	91	77	91	93	85	61	9
都市システム工学科	64	100	100	98	100	100	98	100	100	98	58	8
建築学科	45	98	100	93	98	100	91	100	100	87	62	9
全学科	344	93	94	89	92	94	83	94	95	88	65	9

平成20年度

学科名	回答科目数	設問に「はい」と回答した科目数の割合(%)										
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
		学生に本授業科目の学習・教育目標を十分理解させることが出来たか？	授業の冒頭でシラバスの内容を説明したか？	授業はシラバスの内容・順序どおりで実施できたか？	適切な教材を用いているか？	学生の授業中の反応をチェックしているか？	レポートや小試験を実施しているか？	成績評価はシラバスどおり行ったか？	成績評価の根拠となる資料は残しているか？	学生の興味や理解度を高めるために何か工夫をしているか？	学生からのアンケート結果を授業に反映させているか？	本授業科目の実施上で何か問題があるか？
一般科目	32	100%	94%	97%	94%	100%	84%	97%	100%	97%	72%	6%
機械工学科	55	100%	100%	96%	96%	100%	84%	100%	100%	89%	73%	2%
電気情報工学科	111	100%	100%	95%	95%	100%	89%	99%	100%	95%	53%	15%
都市システム工学科	84	99%	98%	99%	99%	99%	99%	99%	99%	99%	65%	6%
建築学科	59	98%	98%	95%	97%	93%	83%	98%	98%	85%	54%	7%
全学科	341	99%	99%	96%	96%	99%	89%	99%	99%	93%	61%	9%

平成21年度

学科名	回答科目数	設問に「はい」と回答した科目数の割合(%)										
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
		学生に本授業科目の学習・教育目標を十分理解させることが出来たか？	授業の冒頭でシラバスの内容を説明したか？	授業はシラバスの内容・順序どおりで実施できたか？	適切な教材を用いているか？	学生の授業中の反応をチェックしているか？	レポートや小試験を実施しているか？	成績評価はシラバスどおり行ったか？	成績評価の根拠となる資料は残しているか？	学生の興味や理解度を高めるために何か工夫をしているか？	学生からのアンケート結果を授業に反映させているか？	本授業科目の実施上で何か問題があるか？
一般科目	81	100%	100%	91%	100%	100%	90%	100%	100%	95%	68%	1%
機械工学科	47	100%	100%	98%	100%	100%	87%	100%	100%	81%	55%	2%
電気情報工学科	120	100%	100%	91%	93%	100%	86%	100%	100%	97%	32%	13%
都市システム工学科	37	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	76%	3%
建築学科	56	100%	98%	98%	98%	96%	95%	100%	98%	96%	68%	4%
全学科	341	100%	100%	94%	97%	99%	90%	100%	100%	94%	54%	6%

表4-2-3 教材開発

学科名	開発者	開発年月	教材の種類	教材の概要	教材の使用状況または使用予定			
					学年	学科名	授業科目	使用開始(予定)年月
電気情報工学科	上 泰	平成21年04月	テキスト	平成21年04月テキスト古典制御の基礎について、できる限り平易にまとめた講義ノートである。これまでは更紙プリントで配布していたが、見づらい・バラバラになる等の問題点から製本化の要求が出ていたこともあったので、製本化して学生に持たせ、ノートを取らせる時間を省略し、ほぼ毎回の講義で20～30分の演習時間の確保ができるようになった。	4	電気情報工学科	制御工学	平成21年4月
電気情報工学科	堀 桂太郎	平成20年07月	教科書	PSpiceで学ぶ電子回路設計入門(電気書院)電子回路シミュレータを用いて回路の動作を確認しながら、電子回路設計の基本を習得する高専・大学向けの教科書	5	電気情報工学科	電子回路設計	平成20年07月
電気情報工学科	堀 桂太郎	平成18年12月	教科書	図解Verilog HDL実習(森北出版)ハードウェア記述言語を用いたデジタル回路設計手法の基本を実践的な実習により学べる高専・大学向けの教科書	専2	機械・電子システム工学専攻	デジタル回路設計	平成19年04月
建築学科	中川 肇	平成20年09月	テキスト	4年建築学科、建築構造力学Ⅲで使用する教材で、不静定構造物の理論及び演習問題を数多く掲載している。高専生に十分理解できる内容としている。大学編入学試験、大学院入試にも対応できるように演習問題を作成している。	4	建築学科	建築構造力学Ⅲ	平成20年10月
電気情報工学科	佐村 敏治	平成18年06月	その他(e-learning教材)	「Webベースタッチタイピング学習システム」コンピュータ初学習者のために、Webブラウザでタッチタイピングを学習するシステムを開発した。本システムは学内であればどこでも利用することができる。また、タイピング試験を行えるようにユーザ認証機能や試験結果履歴機能等を装備している。毎回授業中にタイピング試験を行っている。	1	都市システム工学科	コンピュータ基礎	平成18年07月
都市システム工学科	鍋島 康之	平成20年04月	その他(講義の補助教材)	地盤工学Ⅰ、地盤工学Ⅱの講義で教科書に記載されていない内容やより詳細な説明を追加した補助教材を作成した。	3・4	都市システム工学科	地盤工学Ⅰ 地盤工学Ⅱ	平成20年04月
電気情報工学科	上 泰	平成19年09月	テキスト	4端子回路網について、時には教科書とは別のアプローチをとりながら要点をまとめたものである。講義の進行は、本資料の配付が前提となるため学生にノートを取らせる時間を省略し、ほぼ毎回の講義で20～30分の演習時間の確保ができるようになった。	3	電気情報工学科	回路論(後期)	平成19年10月
電気情報工学科	大向 雅人	平成10年02月	その他(演習付きのテキスト概要)	半導体を中心とした電子物性を定量的に解説したもの。数学的な基礎もその都度説明を入れている特徴がある。また、演習もつけている。	4	電気情報工学科	電気電子材料	平成10年04月
電気情報工学科	大向 雅人	平成19年06月	その他(演習付きのテキスト概要)	他学科の3年生が半年で電気磁気学と電気回路(交流理論)の基礎が身に付く教材	3	都市システム工学科	工学基礎Ⅲ	
建築学科	中川 肇	平成18年12月	その他(木造模型教材・DVD教材)	明石高専出前講義は平成16年度から実施されている。この出前講義は防災、地震をテーマとした講演を実施するために、平成17年から2年間、大地震時の木造住宅の倒壊の様子を再現できる模型教材を開発し、実験の様子をビデオカメラで撮影しDVD教材(ナレーションなし)を作成した。既に、出前講義で1回、市民講演で2回紹介している。			出前講義で使用	平成18年12月
都市システム工学科	友久 誠司	平成19年04月	自著教科書	土質実験法(改訂版)(鹿島出版会) 大学、高専、工業高校などの土質調査、土質試験の学習で扱うものにふさわしい項目を取り上げ、その指導書として編集されたものである。特に、著者はすべて高専で土質実験にたづさわっている者で、試験方法や結果の工学的意味から実用までを視覚を通してわかりやすく解説している。	4	都市システム工学科	工学実験Ⅱ	平成19年04月

資料4-2-11

専攻科・JABEE 委員会議事録（抜粋）

…

1. 平成23年度シラバス作成用の「説明文」と「流れ図」について

「シラバスの作成ページ」の資料を新しい「シラバスの説明」「流れ図」に入れ替える。

- ・シラバスの説明（4年生以上）：（6）の（注）については、全科目に該当する
- ・流れ図：専攻科長が確認したものを作業台に保存しているので、各委員で最終確認を行う。
- ・シラバス入力開始前にイントラに掲載する。

…

（出典 平成22年度第8回専攻科・JABEE 委員会議事録）

2.5 研究活動による教育の質の改善

各教員の担当科目と研究内容等については、本校ホームページに研究者総覧として公表している(資料4-2-12)。本校では年1回、研究紀要(資料4-2-13)を発行しており、教員等の研究の成果が報告されている。また、専攻科特別研究の成果を報告するための研究年報も年1回発行され(資料4-1-3)、同様に巻末には専攻科生の学会発表等の状況も掲載されている(表4-1-6)。テクノセンターを中心とした地域の企業や自治体、NPO・民間組織などとの共同・受託研究も含めて、教員研究は卒業研究、専攻科特別研究などに反映されており、学生の学術賞等受賞の実績もある(表4-1-7)。

教員の研究や学生の学会発表などが積極的に行われ、テクノセンターを中心とした学外との共同研究・受託研究の実績も重ねてきている。これらの成果が学生の卒業研究や専攻科特別研究に反映され、専門科目の授業内容にも活かされている。

資料4-2-12

研究者総覧 (明石高専ホームページ)

平成22年度の明石高専研究者総覧です。
本研究者総覧は研究開発支援総合ディレクトリ(ReaD)から提供されている情報です。
各研究者氏名をクリックすると、ReaDが提供する各研究者の情報が表示されます。

一般科目	機械工学科	電気情報工学科	都市システム工学科	建築学科
善塔 正志	國峰 寛司	大向 雅人	大橋 健一	大塚 毅彦
仁木 真実	境田 彰芳	堤 保雄	檀 和秀	坂戸 省三
石田 祐	森下 智博	中井 徳一	友久 誠司	田坂 誠一
本間 哲也	池田 光徳	濱田 幸弘	石丸 和宏	八木 雅夫
高田 功	岩野 優樹	藤野 達士	江口 忠臣	工藤 和美
一宮 博	加藤 隆弘	堀 桂太郎	越智 内士	中川 肇
面田 康裕	関森 大介	上 泰	鶴島 康之	平石 年弘
高野 啓児	松下 通紀	佐村 敏治	渡部 守義	辻所 直哉
松宮 篤	藤原 誠之	細川 篤	武田 字浦	東野 アトリアナ
山形 紗恵子	大森 茂俊	宮本 行庸		角野 嘉則
武内 将洋	史 鳳輝	椿本 博久		水島 あかた
倉光 利江	本村 土郎	成枝 秀介		
松下 幸一		廣田 敦志		
後藤 太之		中尾 睦彦		
前原 淳子				
松田 安隆				
橋本 浩美				
井上 英俊				
ハーバート ジョン				

[ReaDが提供する明石工業高等専門学校の情報](#)

資料4-2-13

明石工業高等専門学校研究紀要 第52号(平成21年12月)

目次

夏期における学寮居室の温湿度測定(第2報)	森下智博, 佐村敏治, 江口忠臣 (1)
インクジェット法による有機物電極の成膜	大向雅人, 齋藤俊之, 堤 保雄 (8)
The Effect of Chemical Etching of Porous Silicon : Photoluminescence Spectral Changes	大向雅人, 上原信知, 堤 保雄 (12)
The Dependence of the Width and the Height of Barriers in a Step-like Single Barrier Resonant Tunneling Device	大向雅人, 石野 寛 (16)
土質改良材としてのコンクリートスラッジの可能性について	友久誠司, 鍋島康之, 内藤永秀, 池藤八起 (20)
土木系の工学系教育と運動能力指標の関係について	大橋健一, 後藤太之, 松下幸一 (26)
落差工の断面改変に伴う上流河道の河床変動	神田佳一, 佐本佳昭, 武藤裕則, 張 浩 (32)
喜瀬川北河原井堰直下における魚類の季節変化	渡部守義, 山下貴裕, 吉川英利 (39)
Bayesian Inference for Prediction of Carbonation Depth of Concrete Using MCMC	田坂誠一, M.SHINOZUKA, S.RAY CHAUDHURI, U.J.NA (45)
小学生・市民を対象にした室内型防災教材の開発と学習効果	中川 肇, 湯川和樹 (51)
集合材技術を用いた横架材の曲げ性能に関する研究	荘所直哉, 荻野 裕, 早崎洋一 (57)
学習者の反応を基にした新TOEICテストと旧TOEICテストの比較	井上英俊 (61)
「盤瓠」(『搜神記』)の受容について	善塔正志 (67)

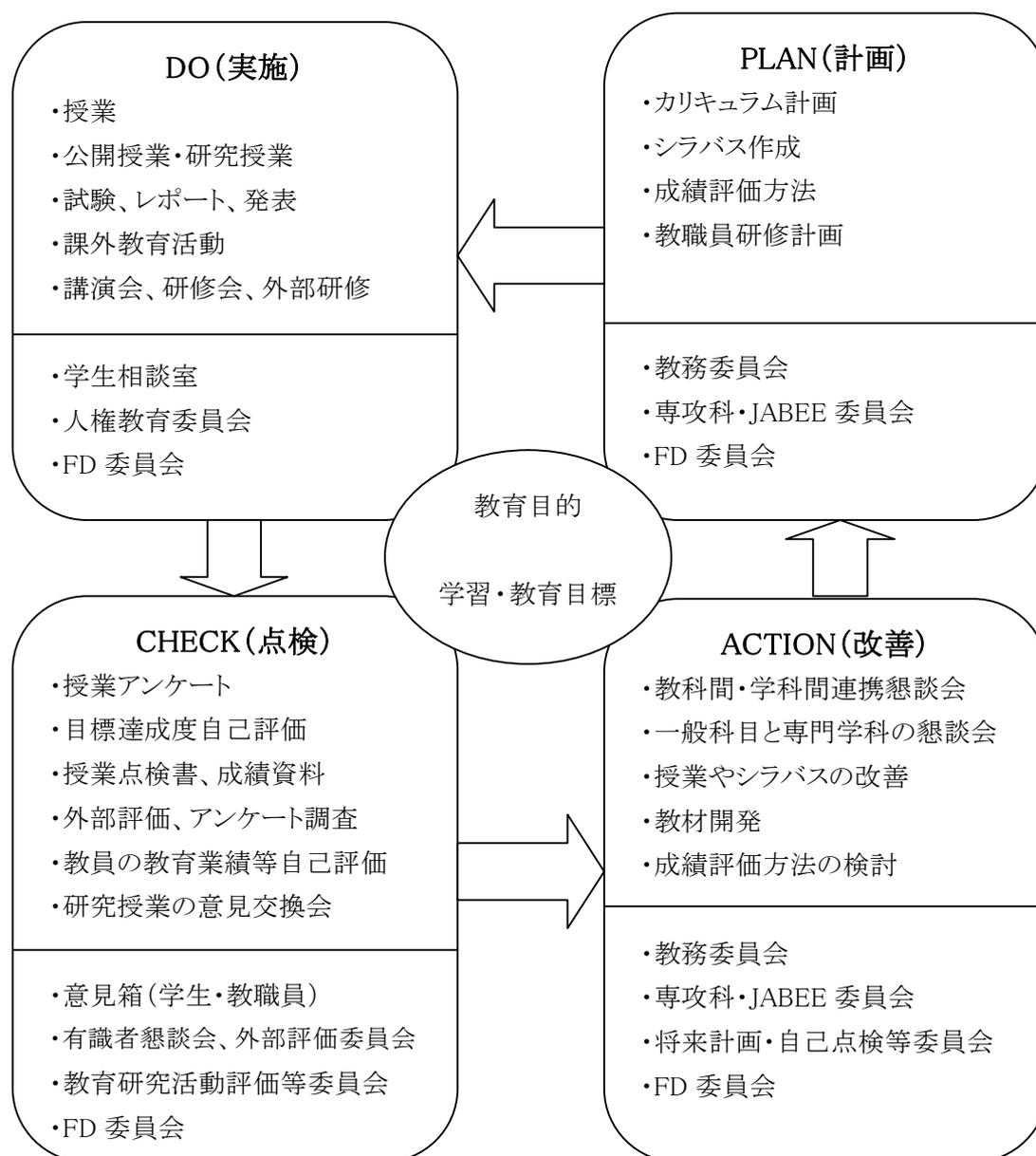
(出典 明石工業高等専門学校研究紀要 第52号)

3 教員と教育支援者の資質向上のシステム

3.1 FD（ファカルティ・ディベロップメント）の取組と成果

本校では、教員の資質向上を図るため平成16年度よりFD委員会を設置し、教育の質の向上と授業の改善に取り組んでいる。FD活動は、本校の教育目的及び学習・教育目標を達成するため、計画・実施・点検・改善というPDCAサイクルに基づいて実行される（図4-3-1）。

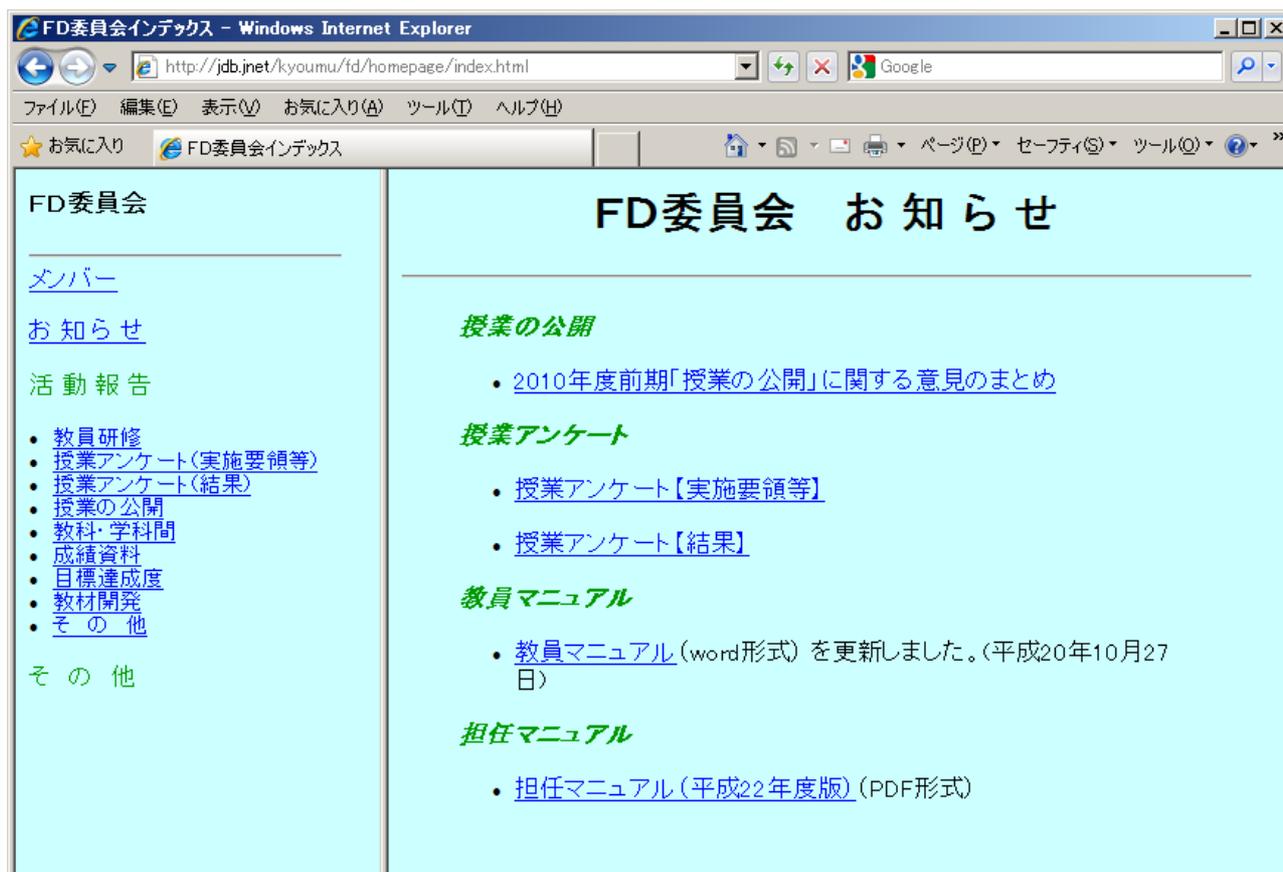
図4-3-1 PDCAサイクルに基づくFD活動



平成16年11月には、学内LANにFD委員会のホームページを設置し、FD活動の実施状況、懇談会等のまとめと資料、授業アンケート、公開授業における授業参観者アンケートの結果等、教員の質的向上と教育改善に役立つ情報が全教職員に開示されている。(図4-3-2)

FD活動に関する委員会等の組織の関係は図4-2-2に示す通りである。FD活動は中期計画の一環として将来計画・自己点検等委員会において策定され(資料4-3-1)、教務委員会や専攻科・JABEE委員会との連携により計画・実施される。

図4-3-2 FD委員会のホームページ



資料4-3-1 将来計画・自己点検等委員会規程（抜粋）

将来計画・自己点検等委員会規程（抜粋）

（趣旨）

第1条 中期計画等の策定並びに自己点検及び自己評価（以下「自己点検等」という。）を行うため、将来計画・自己点検等委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（組織）

第2条 委員会は、次の各号に掲げる者をもつて組織する。

- (1) 副校長及び校長補佐
- (2) 各学科長及び一般科目長
- (3) 図書館長
- (4) 情報センター長
- (5) 技術教育支援センター長
- (6) 広報委員会委員長
- (7) FD委員会委員長

（出典 明石工業高等専門学校規則集）

FD委員会は、委員会規程に基づいてFD活動を具体的に計画し実施する組織である（資料4-3-2）。委員会は各科の教員により構成され、活動内容については教員のニーズが反映されている。また、学生や教職員が自由に意見を投稿できる意見箱が設置されている。教職員意見箱については意見の早期把握を目的に平成22年8月よりWeb方式に変更されている（資料4-3-3）。

授業の公開は平成14年度から毎年行われている。前期と後期にそれぞれ1回ずつ、1週間の期間に渡りすべての授業が全教員、保護者、中学校教員を対象に公開されている。授業参観の意見は学内LANに開示するとともに、「工夫が見られた点」、「改善意見」、「保護者の意見」等を当該教員に印刷配布し、授業の改善に役立てている。また、研究授業を各科で設定し、当該科目については公開期間の終了後に各科で意見交換会を開催し、議事録をまとめて学内LANにて開示している（図4-3-3）。

教育に関する教科間・学科間の連携を図るための懇談会を平成14年度から毎年実施している。懇談のテーマはFD委員会で審議され、平成22年度には委員会間（教務委員会、専攻科・JABEE委員会、FD委員会）の連携懇談会を開催し、教育方法等に関する検討を行っている（表4-3-1）。

教職員研修については、FD委員会と学生相談室及び人権教育推進委員会等との共催、並びに安全衛生委員会や総務課等により、教職員の資質向上を図るための研修会や講演会を実施している（表4-3-2）。また、新任教員を対象にガイダンスを実施しており（資料4-3-4）、校長、副校長及び校長補佐から講話を受け、更に教員マニュアルを配布して教育業務の円滑な遂行を支援している（資料4-3-5）。

教員の授業方法の改善については、授業点検書の作成及び授業アンケートへの講評やコメントの記入により実施している。FD委員会では教員から提出された書類を集計し、その結果を取り纏めて学内LANに開示している（資料4-3-6（授業点検書）、資料4-3-7（授業アンケート【担当教員からの講評】）、資料4-3-8（授業アンケート【授業の改善すべき点】））。

資料4-3-2

FD委員会規程（抜粋）

（趣旨）

第1条 明石工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教員研修に関すること及び教育活動についての点検・改善について、審議するためFD委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- （1）教員研修に関すること。
- （2）授業アンケートに関すること。
- （3）授業公開に関すること。
- （4）教育に関する教科間・学科間の連携に関すること。
- （5）成績資料の点検に関すること。
- （6）シラバスの点検とフィードバックに関すること。
- （7）学生の目標達成度の点検とフィードバックに関すること。
- （8）その他の教育の点検・改善に関すること。

（出典 明石工業高等専門学校規則集）

資料4-3-3 明石高専教職員意見箱についてのメール通知文書（抜粋）

平成22年7月30日

教職員各位

校長

明石高専教職員意見箱について

平成19年6月から実施しております本校教職員意見箱について、下記のとおり一部変更することとしましたので、お知らせします。

記

1. 意見等の受付方法の変更

従来は四半期毎（6月、9月、12月、3月）に設置している意見箱を、高専機構意見箱と同様、WEB方式に変更する。

2. 変更理由

学校運営上の課題・問題点を一層早期に把握し、その改善に資することをするため。

3. 変更時期

平成22年8月

（出典 メール通知文書）

図4-3-3 研究授業の意見交換会議事録

学科	日程	場所	備考
一般科目	7月15日(木)17:10～	一般科目事務室	
都市システム工学科	7月15日(木)16:20～	都市システム棟3F会議室	
建築学科	7月12日(月)16:20～	建築学科会議室	

表4-3-1 教育に関する教科間・学科間の連携懇談会

年度	開催月日	懇談会名
18	9月8日	国語担当教員と専門学科教員との懇談会
	1月25日	数学系担当教員と専門学科教員との懇談会
19	10月4日	英語担当教員と専門学科教員との懇談会
	12月4日	情報処理教育に関する懇談会
20	10月2日	自然科学担当教員と専門学科教員との懇談会
	12月5日	数学系及び体育教員と専門学科教員との懇談会
21	2月17日	意見交換会「学科間連携・低学年教育の在り方について」
22	8月30日	社会科学担当教員と専門学科教員との懇談会
	9月30日	委員会間連携懇談会

表4-3-2 教職員対象の研修会（学内）

年度	分類	開催年月日	担当委員会等	参加者数			
				教員	技術	事務	合計
18	学生相談に係る教職員研修	H18.6.5、 H18.12.4	学生相談室・庶務課	56	1	6	63
	市民救命士講習会	H18.11.29	総務課	14	5	10	29
	新規採用職員研修	H18.4.1	総務課	0	1	7	8
	FD研修会	H18.6.29	FD委員会、庶務課	22	0	1	23
	科研に関する講演会	H18.9.20	総務課	記録なし			
19	学生相談に関する教職員研修	H19.12.3	学生相談室・庶務課	30	1	12	43
	新規採用職員研修	H19.4.2	総務課	2	0	0	2
	教職員研修会	H19.7.30	総務課	39	0	8	47
	FD講演会	H19.7.31	FD委員会、庶務課	記録なし			
	知的財産セミナー	H19.11.30	テクノセンター	14	0	2	16
20	新規採用職員研修	H20.4.1	総務課	0	0	7	7
	学生相談に関する教職員研修	H20.6.2、 H20.12.1	学生相談室・総務課	47	0	8	55
	市民救命士講習会	H20.12.4	総務課	10	3	13	26
	新型インフルエンザに関する教職員研修	H20.12.3	総務課	27	5	10	42
	FD講演会	H20.7.29	FD委員会、総務課	39	0	2	41
	FD講演会	H20.9.22	FD委員会、総務課	33	2	8	43
	教職員研修会	H20.12.8	総務課	22	0	8	30
	FD講演会	H21.2.17	総務課	42	0	10	52
知的財産セミナー	H21.1.15	テクノセンター	8	0	4	12	
21	新規採用職員研修	H21.4.1	総務課	6	1	5	12
	学生相談に関する教職員研修	H21.6.1	学生相談室・総務課	31	1	9	41
	ソフトウェア管理に関する研修会	H22.2.23	総務課	23	7	9	39
	FD講演会	H21.9.15	FD委員会、総務課	26	2	7	35
	FD講演会	H21.11.19	FD委員会、学生相談室、総務課	33	1	8	42
	教職員研修会	H21.12.7	安全衛生委員会	33	3	13	49
22	新規採用職員研修	H22.4.1	総務課	3	0	0	3
	市民救命士講習会	H22.12.7	安全衛生委員会	10	1	10	21
	人権教育に係る教職員研修について	H22.8.6	FD委員会、人権教育推進委員会、総務課	25	2	6	33
	学生相談に関する教職員研修	H22.6.2	学生相談室、FD委員会、総務課	43	2	8	53
	FD講演会	H22.9.30	FD委員会、総務課	32	1	7	40
	FD講演会	H22.12.3	FD委員会、総務課	24	1	9	34
	知的財産セミナー	H22.12.6	テクノセンター	17	0	7	24

資料4-3-4

平成22年度新規採用等教員研修会

1. 日時等 平成22年 4月 1日(木)
13時15分から
小会議室
2. 受講者 ・新規採用等教員 (建築) 助教 ***
・高専間交流による配置換 (機械) 准教授 ***
(一般) 助教 ***
3. 研修内容等

13:15~13:30	校長講話 (15分)
13:30~13:50	明石高専の組織・管理運営について (総務課長) (20分)
13:50~14:50	教務・学生・寮務に関する話 副校長 (教務) 校長補佐 (学生) 校長補佐 (寮務) (60分)
15:00~15:20	セクシュアル・ハラスメントの防止等について (学生相談室長) (20分)
15:20~15:40	安全管理について (技術教育支援センター技術長、第1技術班長) (20分)
15:40~16:00	イントラの使用方法等について (情報係長) (20分)
16:10~16:30	就業規則等について (総務課長補佐) (20分)
16:30~	事務手続き説明会

(出典：学内資料)

資料4-3-5 教員マニュアル (抜粋)

教員マニュアル

FD 委員会作成

1. 高等教育機関

- (1)教育と研究の両立
- (2)学校と研究所の相違
- (3)教育……3 本柱：授業、学生指導、これに係わる校務
- (4)「教育=教科の教育」ではない。授業は教育の柱であっても全体ではない。
- (5)学生としての自覚・自律を求めつつ、必要に応じて高校的教育方法を加味しなければならない。
- (6)自由をはき違えて崩れることも。(例:アルバイト、車、飲酒・喫煙、その他)

2. 明石高専の特色と教育目的

- (1)中学卒業程度以上を入学資格とし、学科 5 年間と専攻科 2 年間の教育を行う学校であり、次の特色がある。 ①幅広い教養教育と早期専門教育 ②実験・実習・演習の重視 ③学科卒業生には「準学士」、専攻科修了生には「学士」の授与 ④多様な進路の保障
- (2)豊かな教養と感性を育てると共に、科学技術の進歩に対応した専門の知識・技術を教授し、次の能力を備えた技術者を養成することを目的にしている。 ①健康な心身と豊かな人間性 ②柔軟な問題解決能力 ③実践的な技術力 ④豊かな国際性と指導力

【明石高専ホームページ】(特色と教育目的)(入学案内-高専とは)を参照

(出典 明石工業高等専門学校 教員マニュアル)

資料4-3-6 授業点検書集計

授業点検書集計

科目分類の記号: A(4.5) (このファイルで集計する授業科目の科目分類の記号を記入して下さい。例:A(4.5))

シート	記入日	授業科目名	担当教員	クラス	講義・演習・実験	はい:1、いいえ:0									「はい」の場合の具体例	
						1	2	3	4	5	6	7	8	9		
例	平成21年3月1日	○×工学	魚住一郎	4A	講義	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12回の授業を学生のグループ発表にあて、学生に自ら調べさせて発表させている。
1	平成21年9月30日	建築情報デザイン	***	4A	講義	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	手を動かすことを通してストラテジーが理解でき、身につくようにしている。
2	平成22年2月17日	土質基礎構造	***	5A	講義	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	応力の種類(せん断、垂直応力)が分かる連続体要素模型の提示を行った。また、地中の見えない状況として、クイックサンドやポイリング現象および地盤のすべり破壊が具体的にどんなものか、その認知を可能とする模型実験写真の提示などを行った。
3	平成22年2月25日	建築構造演習II	***	5A	講義	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	授業中、学生への質問に応え、理解を深めさせるように心がけている。
4	#####	建築史 II	***	4A	講義	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	スライドとビデオなどの映像教材を利用する
5	#####	建築学演習	***	5A	演習	1	1	1	1	1	0	1	1	0		
6	平成22年3月11日	建築構造演習 I	***	5A	演習	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	適時課題発表をさせ、進捗状況をチェックしている。
7	平成22年3月26日	建築史 III	***	5A	講義	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	ビデオなどの映像教材を利用しました。
8	平成22年3月1日	建築計画 II	***	4A	講義	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12回の授業を学生のグループ発表にあて、学生に自ら調べさせて発表させている。

(出典 授業点検書集計結果)

資料4-3-7 平成22年度授業アンケートの集計結果（【担当教員からの講評】抜粋）

担当教員からの講評

・来年度、カリキュラムの改訂により、この科目はなくなります。他の担当科目でご意見を生かして行きたいと思います。

・電磁気学は基本的なところを理解していなければ、どんどんわからなくなります。また、電場や磁場など目に見えない概念的なものを新たに定義するため、直感的な感覚が働きにくいので最初は難解に感じます。しかし、頭をやわらかくしてその定義を受け入れ、勉強を続けることによりわかってきます。しかも基本をしっかり理解し、力学の知識があれば、電磁気学は非常に簡単な科目です。なお、時間的に余裕がないので、余談等は少ないかもしれませんが、その時間を惜しんで例題等の時間にあてています。

・この授業は毎回パワーポイントを用いて行っているため、毎年学生からわかりやすいという意見が多い。難易度も一部の学生を除き、適切であると感じられるので、今後もこの調子で行こうと考えている。一方で、課題を写している学生に対して何らかの対応をとる必要があると考えるが、良い案が浮かばないのが現状である。課題提出状況サイトの更新については、できる限り早急に行っていくよう努力する。

・学生は初めて、設計計算書から図面の完成まで独自の設計ですが、積極的に取り込んでいるし、作品（図面など）は期限とおりに提出して良かったと思います。

・4Mの教室は廊下側にカーテンが無く、また、カーテンがある方も遮光が悪く、スクリーンが見にくいいため良い状況では無かったことも関係していると思いますが、一部の学生にやや緊張感が無かったのが残念に思います。（自覚はあったようです。）

（出典 授業アンケート集計結果）

資料4-3-8 平成22年度授業アンケート集計結果（【授業の改善すべき点】抜粋）

授業の改善すべき点（項目のみ）

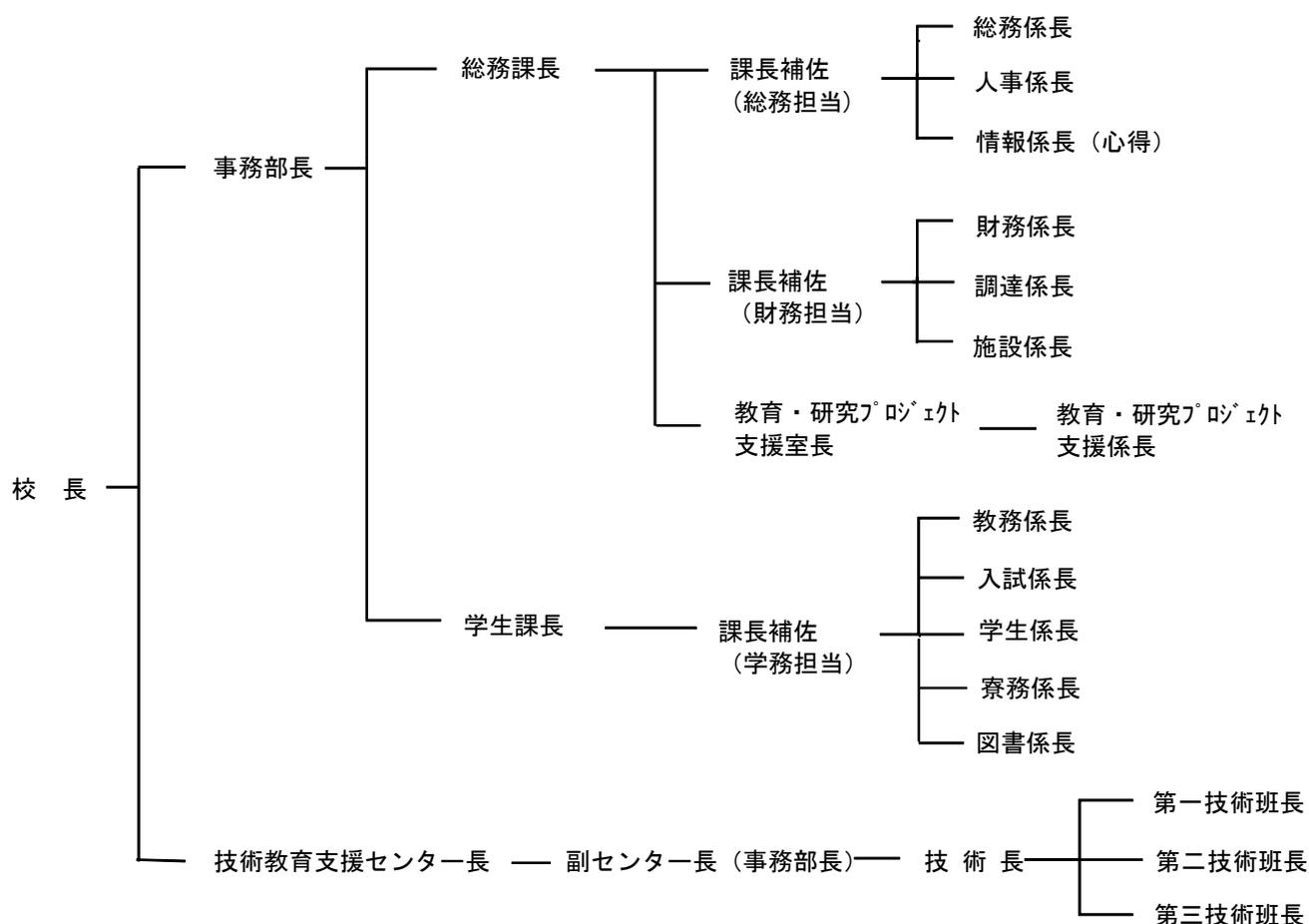
1. 説明の仕方
2. 授業の進め方・工夫
3. 黒板の使い方
4. 教材等
5. 課題等
6. 試験・評価
7. その他

（出典 授業アンケート集計結果）

3.2 教育支援者等の資質向上

本校の事務職員及び技術職員の関係組織図を図4-3-4に示す。事務職員組織は事務部長以下2課体制となっており、組織及び所掌事務については事務組織規程(資料4-3-9)、課長補佐及び各係の名称や事務分掌については事務分掌規程(資料4-3-10)に定められている。また、技術職員組織は技術教育支援センター長(教員)以下、副センター長、技術長、3技術班から構成されており、その業務については技術教育支援センター規則(資料4-3-11)に定められている。

図4-3-4 事務職員及び技術職員の関係組織図



資料4-3-9

事務組織規程（抜粋）

（趣旨）

第1条 この規程は、明石工業高等専門学校事務組織及びその所掌事務について定める。

（事務部の組織）

第2条 事務部に総務課及び学生課を置く。

（総務課の事務）

第3条 総務課においては、次の事務をつかさどる。

- （1）学校の事務に関し、総括し、及び連絡調整すること。
- （2）儀式・会議、その他諸行事に関すること。
- （3）学則その他諸規程の制定及び改廃に関すること
- （4）内地研究員、在外研究員、教育研究集会等に関すること。
- （5）科学研究費及び研究助成等に関すること。
- （6）学術団体等との連絡に関すること。
- （7）自己点検・評価、外部評価及び認証評価に関すること。
- （8）広報及び情報公開に関すること。
- （9）渉外に関すること。
- （10）法人文書類の收受、発送、編集及び保管に関すること。

（出典 明石工業高等専門学校規則集）

資料4-3-10

事務分掌規程（抜粋）

（趣旨）

第1条 事務組織規程第5条第3項及び第7条第2項の規定に基づく課長補佐並びに各係の名称及び事務分掌については、この規程の定めるところによる。

（総務課）

第2条 総務課に課長補佐（総務担当）、課長補佐（財務担当）、教育・研究プロジェクト支援室長及び次の7係を置く。

総務係

人事係

情報係

財務係

調達係

施設係

教育・研究プロジェクト支援係

（出典 明石工業高等専門学校規則集）

資料4-3-11

技術教育支援センター規則（抜粋）

（設置）

第1条 明石工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、教育・研究に関する技術的支援と専門

的業務を円滑かつ効率的に行うため、技術教育支援センター（以下「センター」という。）を置く。

（組織）

第2条 センターに、センター長、副センター長、技術長、技術専門職員及び技術職員を置く。

2 センターに、技術専門員を置くことができる。

3 前項に掲げる者のほか、特定事項の教育支援を行うため、専任教員を置くことができる。

4 センターに、第1技術班（機械系）、第2技術班（建設系）、第3技術班（電気・情報系）を置く。

（業務）

第3条 センターは、本校の教育・研究の支援及び技術に関する次の業務を行う。

(1) 学生の実験実習、演習及び卒業研究に関する技術指導

(2) 全校を対象とした技術に関する業務

(3) 共同研究等における技術相談、技術協力及び技術指導に関すること

(4) センターの管理・運営に関すること

(5) その他、センター長が必要と認めたもの

2 前条第3項に定める各技術班においては、当該各分野に関する専門技術業務及び技術開発並びに学生の技術指導を行う。

（出典 明石工業高等専門学校規則集）

職員の資質向上のため、学内及び学外で種々の研修会が開催されている。学内で開催される教職員対象の研修については、総務課人事係が全教職員に対して周知している（資料4-3-12）。参加状況は表4-3-2に示すとおりである。学外で開催される研修については毎年度当初に参加計画を策定し、適切な研修会に適正な人員が参加している。参加状況を表4-3-3に示す。

資料4-3-12

Subject: 「人権教育」に関する教職員研修について

From: 中村 秀幸 <nakamura@akashi.ac.jp>

Date: Mon, 02 Aug 2010 09:30:23 +090

To: staff@akashi.ac.jp

「人権教育」に関する教職員研修について

学生に対する人権教育についてより適切に対応することを目的とし、教職員を対象として標記研修を実施いたします。

教職員の皆様は、できるだけ参加してください。

テーマ: 「教育の根幹としての人権教育」

講師: 人権教育推進委員会委員長 椿本博久先生

日時: 平成22年8月6日(金)

14時から(約1時間30分)

場所: 合併教室

FD委員会

人権教育推進委員会

総務課人事係

(出典 学内メール)

表4-3-3 事務職員・技術職員の研修実績

研修会等名称	18年度		19年度		20年度		21年度		22年度		主催等
	技術	事務									
近畿地区国立高専技術職員研修	3	0			記録なし				2	0	近畿地区国立高専
近畿地区高専技術職員懇談会			3	0			3	0			近畿地区国立高専
高専機構新任部課長研修会							0	1	0	2	高専機構
高専機構新任課長補佐、係長研修会							0	1			高専機構
高専機構中堅職員研修会									0	1	高専機構
学務関係職員研修会							0	1	0	1	高専機構
高専機構新任職員研修会							1	0			高専機構
初任給決定担当者説明会							0	1	0	2	高専機構
高専機構知的財産に関する講習会	0	1	0	1	0	1			0	1	高専機構
西日本地域高専技術職員特別研修会			1	0	1	0	1	0	1	0	高専機構、H19建築・環境系、H20機械系、H21電気・電子系、H22情報系
近畿地区中堅係員研修	1	0	0	2	1	1	1	1	0	1	人事院
近畿地区係長研修					0	1					人事院
国家公務員倫理法10周年記念セミナー							0	1			人事院
兵庫県下教育機関事務系職員(新規採用者)研修	1	0					1	0			兵庫県下国立学校(担当校神戸大学)
アプリケーションソフト研修会	0	5	0	6	1	3	0	3	0	2	神戸大学
第一種衛生管理者試験受験準備講習会	0	1	0	2			0	2	1	0	神戸大学
図書館等職員著作権実務講習会									0	2	文化庁
情報システム統一研修	1	1	1	0	0	1	1	0			文科省
SCS活用セミナー2007-大学教職員のための労務セミナー			0	2							SCS配信、会場: 神戸大学海事科学部
近畿地区国立大学法人等施設系職員研修	0	1									大阪大学、共催(社)国立大学協会近畿地区支部
近畿地区大学知的財産戦略研修会	0	1									大阪大学
大学知的財産アドバイザー派遣先大学知的財産担当者研修									0	1	経済産業省、(独)工業所有権情報・研修館

4. 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・卒業時及び専攻科修了時における学生の学習・教育目標の達成度評価システムが確立している。
- ・各授業に対する学生や他の教員による授業評価システムが確立しており、その結果を教員にフィードバックし、授業改善を行っている。
- ・準学士課程及び専攻科課程において、研究成果の学会等への発表が積極的に行われており、学会等から表彰を受けた学生が多い。
- ・学科卒業生、専攻科修了生及び進路先企業等から、卒業生や修了生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見をアンケートにより聴取する取組みを実施しており、高い評価を得ている。
- ・FD委員会、教務委員会、専攻科・JABEE委員会を中心として教育活動の実態を示すデータや資料を収集・蓄積し、その評価結果を教育改善に繋げる体制を整備している。
- ・毎年授業公開の期間を設け、全授業を教員、保護者、中学校教員に公開するとともに、研究授業を設定し各科で授業改善のための取組を実施している。
- ・授業アンケートの結果を、学内LANを通して全教職員及び学生に公表している。

(改善を要する点)

- ・学習・教育目標のうち卒業生、修了生、進路先関係者等による評価の低いものについては改善策を講じることが必要である。